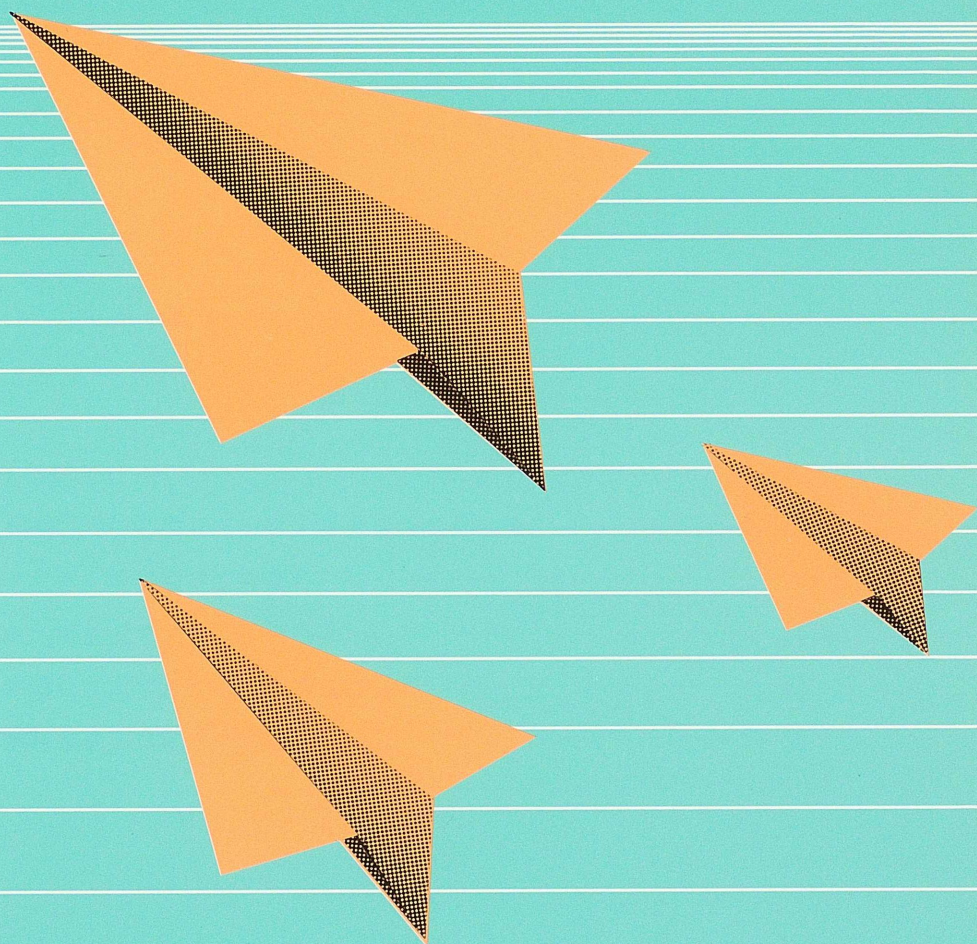


共通1次試験

昭和61年度入試と今後の改善案



昭和61年度版 大学入試センター

— 目 次 —

●はじめに.....	2
●昭和61年度国公立大学入学者選抜のあらまし.....	4
●大学入学者選抜改善資料.....	16
●大学入試センターのあらまし.....	41
●国公立大学入学者選抜実施状況等.....	43
●共通第1次学力試験の歩み.....	58

はじめに

大学入学者の選抜は、言うまでもなくそれぞれの大学が自らの判断と責任で行うものであり、共通第1次学力試験は、同一の試験問題で共通に行われていても、まさに各国公立大学の入学試験の第1段階のものであります。各国公立大学は、この共通第1次学力試験の成績と、各大学・学部がそれぞれの特性に応じて実施する第2次試験（第2次の学力検査、小論文、面接、実技検査など）の結果とを合わせ、更に高等学校長から提出される調査書の内容などを総合し、適切な入学者の判定を行うことを期しています。

各国公立大学の入学者の選抜において、共通第1次学力試験と第2次試験をどのように組み合わせで行うか、というような点については、各大学がそれぞれの大学・学部の独自性に基づき決定することとなっています。共通第1次学力試験と第2次試験とを、大学・学部の特性に応じて、有機的に組み合わせることができるものであるところに、この入試制度の大きな特色があります。

この入試制度の内容や具体的な運営については、昭和54年度の第1回以来、大学・高等学校を始め、各方面の御尽力と御協力のおかげで、7回の実施を終えています。この実施結果を踏まえて、この入試制度について、いろいろな立場から、種々の意見や批判も寄せられています。

およそ、入試制度についてほど、教育的な理念論と現実論とが交錯するものは、他には無いのではなかろうかと考えられます。我が国においては、入試制度は、常に一方で理念的立場から、一方で実際の立場から同時に批判されることを免れることはできません。それは、入試制

度がそれ自体独立して存立し得るものではなく、現実の社会的情勢や教育の制度の在り方などと深くかかわりを持っているからであります。このことを無視した入試システムは実効が期待できず、他方、入試のシステムだけを批判する意見も説得力を欠くと言わざるを得ません。

共通第1次学力試験制度を構想した国立大学協会が意図していたところは、教育制度その他にも重要な解決すべき問題があるにせよ、入試方法そのものの改善も緊要の課題であると考えたものであります。

しかしながら、これらの意見については、あらゆる観点から十分に吟味してみる必要があることは当然であります。

大学入試センターでは、これまでも共通第1次学力試験そのものに関する意見などについては、その都度検討し、現行の制度の中で改善できるものは、その後の実施に反映させてきました。

大学に入学しようとする者は、単に合格可能性だけによって志望の大学・学部を決めるのではなく、自己の将来を見定め、志を立てて、進むべきところを選択し、これに向かって全力を傾ける、高等学校は、その志を育てるために適切な進路指導を行う、大学は、その特性に応じた学生を求めて、入学者選抜方法に工夫・改善を凝らす、これこそが大学入試の望むべき姿と言えましょう。このような方向を踏まえ、大学入試センターとしては、各国公立大学ともども、共通第1次学力試験を一層有効に生かすよう工夫・改善を進める努力をしていきたいと考えています。

一方、国立大学協会においても、現行制度の問題点について、その改善の必要性を認め、同

協会に入試改善特別委員会を設置し、大学入学者選抜のあるべき姿を求めて慎重に検討が進められてきました。

また、臨時教育審議会においても、高等教育と中等教育の接続の問題として、大学入学者選

抜制度について検討が加えられているところがあります。

本冊子は、これらの状況に鑑みて上述の国立大学協会並びに臨時教育審議会の検討資料を掲載し、改善に供したいと考えています。

入試時間			
科目	試験時間 (配点)	出題範囲	備考
国語	100分 (200点)	「国語」及び「現代文」	「国語」については「国語」及び「現代文」の両方から出題される。出題範囲は「国語」及び「現代文」の両方から出題される。
英語	100分 (200点)	「英語」及び「英語II」	「英語」及び「英語II」の両方から出題される。出題範囲は「英語」及び「英語II」の両方から出題される。
数学	100分 (200点)	「数学」及び「数学II」	「数学」及び「数学II」の両方から出題される。出題範囲は「数学」及び「数学II」の両方から出題される。
理科	100分 (200点)	「物理」及び「化学」	「物理」及び「化学」の両方から出題される。出題範囲は「物理」及び「化学」の両方から出題される。
社会	100分 (200点)	「社会」及び「歴史」	「社会」及び「歴史」の両方から出題される。出題範囲は「社会」及び「歴史」の両方から出題される。
外国語	100分 (200点)	「英語」及び「英語II」	「英語」及び「英語II」の両方から出題される。出題範囲は「英語」及び「英語II」の両方から出題される。

- 「社会」及び「理科」の出題範囲は、それぞれ「社会」及び「理科」の両方から出題される。出題範囲は「社会」及び「理科」の両方から出題される。
- 「工業教育」の出題範囲は、「工業」及び「工業II」の両方から出題される。出題範囲は「工業」及び「工業II」の両方から出題される。
- 「工業教育」の出題範囲は、「工業」及び「工業II」の両方から出題される。出題範囲は「工業」及び「工業II」の両方から出題される。
- 「工業教育」の出題範囲は、「工業」及び「工業II」の両方から出題される。出題範囲は「工業」及び「工業II」の両方から出題される。

昭和61年度 国公立大学入学者選抜のあらまし

国立大学、公立大学及び私立の産業医科大学に入学しようとする者は、各大学の第2次試験を受験する前に共通第1次学力試験を受験しなければなりません。(注)

共通第1次学力試験を取り入れた国公立大学の入学者選抜は、来年度で8回目を迎えます。

また、昭和57年度から新しい高等学校学習指導要領が実施され、出題教科・科目は、新教育課程によりますが、旧教育課程履修者に対しては、出題方法、科目選択等について経過措置を講じており、本年度も同様の方式で実施することとしています。

その概略は、次のとおりです。

なお、入学者選抜の実施日程は、裏表紙のとおりです。

- (注) 1 出題する5教科をすべて受験しなければ失格となる。
2 推薦入学の一部及び帰国子女、社会人などについての特別の方法による選抜では、共通第1次学力試験を受験することが免除される場合もあるので、各大学の推薦入学等の募集要項を参照すること。

1 共通第1次学力試験

(1) 目 的

主として、高等学校の段階における一般的かつ基礎的な学習の達成の程度を判定することを目的とする。

(2) 試験の期日及び時間

期 日	試 験 時 間	
昭和61年 1月25日(土)	国 語	10:00—11:40
	数 学	13:00—14:40
	外国語	15:30—17:10
1月26日(日)	社 会	10:00—12:00
	理 科	13:20—15:20

(3) 試験教科・科目

試験教科・科目は、次のとおりであり、主として多肢選択による客観式の検査方式で出題し、解答はマークシート方式による。

●試験教科・科目

教 科	試験時間 (配 点)	出 題 科 目	出 題 方 法 等	解答する科目の選択方法
国 語	100分 (200点)	「国語Ⅰと国語Ⅱを合わせたもの」		
社 会	120分 (200点)	「現代社会と倫理及び政治・経済を合わせたもの」 「日本史」 「世界史」 「地理」	「現代社会と倫理及び政治・経済を合わせたもの」は、「現代社会」だけを履修した者、並びに「倫理」及び「政治・経済」だけを履修した者のいずれにも対応した出題とする。	「現代社会と倫理及び政治・経済を合わせたもの」1科目と、「日本史」「世界史」及び「地理」の3科目のうちから1科目を試験室で選択し、計2科目を解答する。
数 学	100分 (200点)	『数学Ⅰと数学Ⅱ、工業数理及び「簿記会計Ⅰ・簿記会計Ⅱ」を合わせたもの』	「数学Ⅱ」の電子計算機と流れ図は、出題範囲から除く。 「数学Ⅱ」については、「数学Ⅱ」を履修した者並びに「代数・幾何」、「基礎解析」及び「確率・統計」のうち2科目以上を履修した者のいずれにも対応した出題とする。 「簿記会計Ⅱ」は、前半の内容(①特殊な取引の記帳、②帳簿組織、③株式会社の記帳)を出題範囲とする。	「数学Ⅰ」については、全問解答する。 「数学Ⅱ」、「工業数理」、「簿記会計Ⅰ・簿記会計Ⅱ」については、これら三つのうちから一つを選択し、解答する。 ただし、「工業数理」又は「簿記会計Ⅰ・簿記会計Ⅱ」を選択解答できる者は、高等学校で新教育課程の当該科目を履修した者で、出願時にその科目の受験を申請し承認された者に限る。
理 科	120分 (200点)	「理科Ⅰ」 「物理」 「化学」 「生物」 「地 学」		「理科Ⅰ」1科目と、「物理」、「化学」、「生物」及び「地学」の4科目のうちから1科目を試験室で選択し、計2科目を解答する。
外国語	100分 (200点)	「英語Ⅰと英語Ⅱを合わせたもの」 「ドイツ語」 「フランス語」		「英語Ⅰと英語Ⅱを合わせたもの」、これに準じた「ドイツ語」及び「フランス語」のうちから1科目を試験室で選択し、解答する。

- (注) 1. 「社会」及び「理科」の各科目の配点は、いずれも100点とするが、「数学」については「数学Ⅰ」120点、「数学Ⅱ」80点(「工業数理」、「簿記会計Ⅰ・Ⅱ」も同じ。)とする。
2. 「工業数理」の使用単位系は、「SⅠ」(国際単位系)に統一する。
3. 「工業数理」、「簿記会計Ⅰ・Ⅱ」は、「数学」の試験時間中に選択解答するものとして試験が行われるので、他の科目と同様に、電子式卓上計算機、そろばん、グラフ用紙、定規等の補助具の使用を認めない。
4. 「工業数理」、「簿記会計Ⅰ・Ⅱ」を選択しようとする者は、出願の際に志願票で受験申請しなければならない。これらの科目を受験することが認められた者(受験票に表示する。)は、他の科目に変更して解答することはできない。

なお、経過措置として旧教育課程に対応した出題方法、科目選択を設け、旧教育課程履修者のうち希望するものが、これを受験できるとされている。

また、この措置により科目選択方法が複雑になるので、試験問題冊子の注意事項（抜粋）と解答用紙の様式を見本として受験案内に掲載し、受験生の便宜を図っている。（別記1～2参照）

（別記1）

—旧教育課程履修者に対する経過措置—

（注）「旧教育課程履修者」とは、高等学校（盲学校、ろう学校及び養護学校の高等部を含む。）に昭和57年4月以降に入学し、昭和61年3月までに卒業又は卒業見込みの者以外のものとする。

1 昭和61年度共通第1次学力試験のすべての受験者は、新教育課程の教科・科目の内容による試験問題を受験するのが原則であるが、旧教育課程履修者に対しては次のような経過措置を講ずることとし、旧教育課程履修者のうち希望するものが、この経過措置により受験できるものとする。

（科目選択の特例）

（1）旧教育課程履修者は、「社会」及び「理科」において全受験者必須とされている『「現代社会」と「倫理」及び「政治・経済」を合わせたもの』又は「理科Ⅰ」を、解答しないことができる。

（出題科目の特例）

（2）「数学一般」及び「基礎理科」は、これらを履修した者のための出題科目として残し、従前と同様の試験時間、配点により出題する。

（旧教育課程科目対応問題の出題）

（3）経過措置を講ずる昭和61年度の共通第1次学力試験においては、新教育課程の出題科目と旧教育課程のこれらに対応する科目との共通の範囲から出題することを基本とするが、この共通の範囲からの出題では共通第1次学力試験の目的が十分達成できないおそれがある出題科目については、試験の円滑な実施を考慮しつつ、旧教育課程の科目に固有の範囲に係る設問を設けて旧教育課程科目対応問題として出題するなどの措置を講ずる。

2 旧教育課程履修者に対する措置としての出題方法、科目選択の方法等は、次表のとおりである。

（表） 旧教育課程履修者に対する措置としての出題方法等

出題教科・科目		旧教育課程の対応科目	旧教育課程科目対応問題等の出題方法	解答する科目の選択方法
国語	「国語Ⅰと国語Ⅱを合わせたもの」	「現代国語と古典Ⅰ甲」	（左の出題科目は、旧教育課程の対応科目の履修により受験できるので、経過措置は行わない。）	
社会	「現代社会と倫理及び政治・経済を合わせたもの」	「倫理・社会」「政治・経済」	「倫理」と旧「倫理・社会」の共通の範囲の問題と、旧「倫理・社会」に固有の範囲の問題とを合わせた問題（旧「倫理・社会」対応問題）を出題し、旧「倫理・社会」について対応できるようにする。旧「政治・経済」についてもこれに準ずる。	下記の①から④のうちから二つ（計2科目）を試験室で選択し、解答する。 ①「現代社会と倫理及び政治・経済を合わせたもの」 「現代社会と倫理及び政治・経済を合わせたもの」、旧「倫理・社会」対応問題又は旧「政治・経済」対応問題 のうちのいずれかを選択
	「日本史」「世界史」	「日本史」「世界史」	（左の出題科目は、旧教育課程の対応科目の履修により受験できるので、経過措置は行わない。）	②「日本史」 ③「世界史」 ④「地理」
	「地理」	「地理A」「地理B」	「地理」と旧「地理A」の共通の範囲の問題と、旧「地理A」に固有の範囲の問題とを合わせた問題（旧「地理A」対応問題）を出題し、旧「地理A」について対応できるようにする。旧「地理B」についてもこれに準ずる。	新「地理」、旧「地理A」対応問題又は旧「地理B」対応問題 のうちのいずれかを選択
数学	「数学Ⅰと数学Ⅱを合わせたもの」	「数学Ⅰ」	新教育課程の「数学Ⅰ」と、「数学Ⅱ」の中の問題を選択することにより解答し得るように出題し、旧「数学Ⅰ」について対応できるようにする。	
		「数学一般」	旧「数学一般」を出題科目として残し、従前と同様な方法で出題する。	高等学校において旧「数学一般」を履修した者又は大学入学資格検定受検の際に旧「数学一般」を選択した者で、共通第1次学力試験の出願時にその受験を申請し、承認されたものに限り選択できる。 なお、「数学一般」を解答した者は、数学の他の科目を解答する必要はない。
	「工業数理」「簿記会計Ⅰ・簿記会計Ⅱ」		（左の出題科目に対応した旧教育課程の出題科目はなかったので、経過措置は行わない。）	

出題教科・科目		旧教育課程の対応科目	旧教育課程科目対応問題等の出題方法	解答する科目の選択方法
理科	「理科Ⅰ」		(左の出題科目に対応した旧教育課程の出題科目はなかったため、経過措置は行わない。)	下記のいずれか一つの方法により、試験室で選択し、計2科目を解答する。 ①「理科Ⅰ」1科目と「物理」、「化学」、「生物」又は「地学」のうちから1科目、計2科目を選択し、解答する。 ②「理科Ⅰ」を解答せず、旧「物理Ⅰ」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」又は「地学Ⅰ」の各対応問題のうちから2科目を選択し、解答する。
	「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	「物理Ⅰ」 「化学Ⅰ」 「生物Ⅰ」 「地学Ⅰ」	「物理」と旧「物理Ⅰ」の共通の範囲の問題と、旧「物理Ⅰ」に固有の範囲の問題とを合わせた問題(旧「物理Ⅰ」対応問題)を出題し、旧「物理Ⅰ」について対応できるようにする。旧「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」及び「地学Ⅰ」についてもこれに準ずる。	
	「理科Ⅰ」 「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	「基礎理科」	旧「基礎理科」を出題科目として残し、従前と同様な方法で出題する。	高等学校において旧「基礎理科」を履修した者又は大学入学資格検定受験の際に旧「基礎理科」を選択した者で、共通第1次学力試験の出願時にその受験を申請し、承認されたものに限り選択できる。 なお、「基礎理科」を解答した者は、理科の他の科目を解答する必要はない。
外国語	「英語Ⅰと英語Ⅱを合わせたもの」 「ドイツ語」 「フランス語」	「英語B」 「英語A」 「ドイツ語」 「フランス語」	(左の出題科目は、旧教育課程の対応科目の履修により受験できるので、経過措置は行わない。)	

〔参考〕 新・旧教育課程履修者の解答する科目の選択方法等 (社会、数学、理科)

1. 「社会」の科目選択の方法

出題科目		選択方法	
科目名	問題群	新教育課程履修者	旧教育課程履修者
① 現代社会と倫理及び政治・経済を合わせたもの	A 現代社会	いずれか一つ選択 (受験必須) 選択できない	いずれか一つ選択 ① A, B, C, Dのうちから ②
	B 倫理、政治・経済		
	C 旧倫理・社会		
	D 旧政治・経済		
② 日本史		いずれか1科目選択	③
③ 世界史			
④ 地理	A 地理	選択できない	いずれか一つ選択 ④
	I 旧地理A		
	U 旧地理B		
解答科目数		2科目	2科目

2. 「数学」の解答方法

出題科目		解答方法	
解答科目の組合せ	問題群	新教育課程履修者	旧教育課程履修者
① 数学Ⅰ 数学Ⅱ	(数学Ⅰは全問解答) 数学Ⅱと代数・幾何の共通部分 数学Ⅱと基礎解析の共通部分 数学Ⅱと確率・統計の共通部分	3群中2群選択 ①	同左
② 数学Ⅰ 工業数理	(数学Ⅰは全問解答)	いずれか一つの方法で解答 ②	解答できない
③ 数学Ⅰ 簿記会計Ⅰ・Ⅱ(前半)	(数学Ⅰは全問解答)		
④ 旧数学一般			
		ただし、②及び③は、承認された者だけ解答できる	
		解答できない	承認された者だけ解答できる

3. 「理科」の科目選択の方法

出題科目 (対応問題)		選択方法	
		新教育課程履修者	旧教育課程履修者
① 理科Ⅰ 物理 化学 生物 地学	受験必須	計2科目解答	同左 ①
② 旧物理Ⅰ 旧化学Ⅰ 旧生物Ⅰ 旧地学Ⅰ	選択できない	いずれか2科目選択解答 ②	①か②のいずれか一つの方法を選択
③ 旧基礎理科		承認された者だけ解答できる	
解答科目数		2科目	2科目 (又は基礎理科1科目)

(別記2)

一試験問題冊子の注意事項とマークシート

昭和61年度大学入学者選抜共通第1次学力試験における社会及び理科の試験問題冊子では、新教育課程履修者用問題と旧教育課程履修者用問題(旧教育課程履修者で希望する者が受験できる。)が、同一の冊子に編集されます。また、解答用紙(マークシート)も、新・旧両教育課程とも同一の解答用紙(マークシート)を使用することになります。

以下に、社会について例示しますので参照してください。

社 会

① 問題冊子の注意事項(抜粋)

社 会 (200点 120分)			
注 意 事 項	注意事項は、裏表紙にも続くので、この問題冊子を裏返して必ず読むこと。ただし、問題冊子を開いてはいけない。		
1 省 略			
2 出題科目、ページ及び選択方法は、次のとおりである。			
〔新教育課程履修者〕 2科目解答			
出 題 科 目	問 題 群	ペー	選 択 方 法
現 代 社 会 (倫理, 政治・経済)	A群 現 代 社 会	～	「A群」又は「B群」のいずれか一つを必ず選択せよ。
	B群 倫理, 政治・経済	～	
日 本 史		～	左の3科目のうちから1科目を選択せよ。
世 界 史		～	
地 理	A群 地 理	～	
〔旧教育課程履修者〕 2科目解答			
出 題 科 目	問 題 群	ペー	選 択 方 法
①現 代 社 会 (倫理, 政治・経済)	A群 現 代 社 会	～	①～④のうちから2科目を選択せよ。
	B群 倫理, 政治・経済	～	
	C群 倫 理 ・ 社 会	～	
	D群 政 治 ・ 経 済	～	
②日 本 史		～	ただし、①を選択する場合は、「A群」～「D群」の中から一つだけ選択せよ。
③世 界 史		～	
④地 理	A群 地 理	～	また、④を選択する場合は、「A群」～「ウ群」の中から一つだけ選択せよ。
	I群 地 理 A	～	
	ウ群 地 理 B	～	

3 省 略

4 解答用紙は、1科目につき片面を使用せよ。どの面をどの科目に使用してもよい。

解答科目マーク欄の

上段 部分は、新教育課程履修者の選択科目(問題群)である。

下段 部分は、旧教育課程履修者の選択科目(問題群)である。

解 答 科 目 (問 題 群) マ ー ク								
現 代 社 会 A	現 代 社 会 B	現 代 社 会 C	現 代 社 会 D	日 本 史	世 界 史	地 理 A	地 理 I	地 理 ウ
○	○	○	○	○	○	○	○	○

5 監督者の指示に従って、解答用紙の下記の該当欄にそれぞれ正しく記入し、マークせよ。

① 受験番号欄

両面に、受験番号(数字及び英字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークすること。

② 氏名欄、試験場コード欄

両面に、氏名(フリガナ)及び試験場コード(数字及び英字)を記入すること。

③ 解答科目マーク欄・解答科目名欄

第1面には、第1面で解答する科目(問題群)(例:現代社会A)に一つマークし、さらにその科目(問題群)名を記入すること。

第2面には、第2面で解答する科目(問題群)に一つマークし、さらにその科目(問題群)名を記入すること。

6 受験番号及び解答する科目(問題群)名が正しくマークされていない場合は、採点できないことがある。

7 } 省 略

8 }

9 }

② 解答用紙の様式（見本）

原寸 222.25mm×279.40mm以下同型

社会解答用紙・第1面

この面で解答する科目(問題群)に一つマークし、さらにその科目(問題群)名を記入せよ。

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークせよ。

氏名(フリガナ)、試験場コードを記入せよ。

解答科目(問題群)マーク

現代社会	現代社会	現代社会	現代社会	日本史	世界史	地理	地理	地理
A	B	C	D			ア	イ	ウ
0	0	0	0	0	0	0	0	0

氏名

試験場コード

千位	百位	十位	一位	英字
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0	0	0	0	B
0	0	0	0	C
0	0	0	0	D
0	0	0	0	A
0				

合は1月25日(土)午前8時から午前9時まで)までに申請し許可された者に限る。]及び交通事故又は災害等により、全教科又は1日分の教科の試験を受験できない者を対象として行う。

イ 実施期日は、昭和61年2月1日(土)、2日(日)とし、2か所の追試験場で実施する。ただし、再試験をこの期日より後に実施する場合は、再試験と同一の期日とする。

(11) 正解などの発表

共通第1次学力試験に関する資料を、報道機関を通じて次のとおり発表する。

ア 大学・学部¹の志望状況……1月上旬

イ 試験問題, 正解等……1月27日(月)

ウ 実施結果の概要等……2月7日(金)までに最終結果の予測値を中間発表し、2月17日(月)以降に最終発表を行う。

共通第1次学力試験の個人別成績は、発表しない。なお、第2段階の設問（小問）までの配点は、正解発表の際に発表する。

2 第2次試験

(1) 目的

各大学の学部・学科等の目的、特色、専門分野等の特性にふさわしい能力・適性等を有する否かを判定することを目的とするものとし、その実施に当たっては、次の諸点に配慮するものとされている。

ア 出題する教科・科目の数については、当該大学・学部の目的、特色、専門分野等の特性に応じ、必要な最少限度とすることが望ましい。

イ 出題形式は、記述式、論文式などにより、入学志願者の記述力、考察力、表現力等が検査できるようにすることが望ましい。共

通第1次学力試験に出題された科目から出題する場合は、この出題形式によるよう特に配慮することが望ましい。

ウ 高等学校の専門教育を主とする学科の卒業者のため、職業に関する基礎的、基本的科目を出題し、選択解答できるよう特に配慮することが望ましい。

(2) 試験の期日

各大学の第2次試験（学力検査、面接、小論文、実技検査など）は、昭和61年3月4日（火）から各大学が定める期間に実施する。（公立大学の一部では、この時期をずらせて実施するものもある。）

(3) 成績の判定

第2次の学力検査を実施する大学における学力検査の成績の判定は、共通第1次学力試験の成績と第2次の学力検査の成績とを合理的に総合して行うものとされている。この場合、共通第1次学力試験の成績が、この試験の目的に即して、適切に評価されるよう配慮するものとされている。

(4) 試験の方法

第2次試験は、学力検査のほか、小論文、面接、実技検査などにより行われる。

これらは、学力検査だけでは判定し得ない能力・適性などをできる限り多角的に検査するために行うもので、積極的に活用することが望ましいとされている。

(5) 各大学の第2次試験の要項の発表

ア 各大学の第2次試験の内容の基本的な事項（学力検査の実施教科・科目、実技検査や面接、小論文、推薦入学・帰国子女・社会人などについての特別の方法による選抜等の有無など）は、昭和60年7月31日（水）までに決定して発表される。

イ 学部・学科の募集人員，出願期日，第2
次の学力検査の実施期日，検定料などの細

目は、昭和60年12月25日(水)までに発表される。

(6) 推薦入学

入学定員の一部について、出身学校長の推薦により、学力検査を免除して面接、小論文などの成績と調査書の内容などを主な資料として可否を判定する。この場合、大学・学部
の目的、特色、専門分野などの特性に応じて
共通第1次学力試験を課する場合と免除して
実施する場合の二種類がある。

(7) 第2次募集

合格者発表後、昭和61年3月21日(金)以降
 に行う募集で、入学定員の一部をあらかじめ
 留保し、又は入学者(合格者)が定員に満たな
 い場合に行う。出願できる者は、共通第1次
 学力試験を受験している者で、いずれの国立
 大学にも合格していない者である。

(8) 2 段階選抜

入学志願者の数が入学定員を大幅に上回り、第2次の学力検査などを適切に実施することが困難である場合に、主として調査書の内容と共通第1次学力試験の成績によって第1段階の選抜を実施し、その合格者について、更に必要な検査などを行って最終的な合格者を決定する。

(9) 帰国子女，社会人のための特別入学

我が国の社会、産業、経済の国際化に伴い、海外に派遣される両親とともに海外に滞在し、現地で教育を受けて数年後帰国した子女又は高等学校等卒業後社会人としての経験を経た者を対象に共通第1次学力試験を免除（一部の大学では共通第1次学力試験を課すところがある。）して、面接、小論文等により大学入学者を選抜するものである。

大学入学者選抜改善資料

1 大学入学者選抜方法の改善に関するアンケート

国立大学協会の入試改善特別委員会はこのほど、共通第1次学力試験の理念、位置づけなどの検討を含め、当面の具体的な改革案を「入試改善特別委員会中間報告」としてまとめ、これについて、各国立大学長に対し、「大学入学者選抜方法の改善に関するアンケートについて」と題するアンケート調査を実施しました。

アンケートの内容及び「入試改善特別委員会中間報告」は、次のとおりです。

A. 改革案についてのアンケート

別紙の中間報告に提示された改革案の各項目について、貴大学のご意見をおきかせ下さい。学部ごとのご意見でも結構です。とくに、「賛成できない」とされる場合には、なるべくその理由をご記入下さい。

(Ⅰ－1) 「共通第1次学力試験については、国語、数学、外国語、社会、理科の5教科の問題を作成し、試験を実施する。社会、理科の受験科目数は、それぞれ1とする」について

(回 答)

a. 賛成する

b. 賛成できない

(意見等)

(Ⅰ－2) 「入学志願者に要求する共通第1次学力試験の受験教科の数は、各大学の決定に委ねる」について

(回 答)

a. 賛成する

b. 賛成できない

(意見等)

(Ⅱ－1) 「原則として第二次試験に一定の実施期間を設け、各大学・学部はこの期間の中で自由に試験期日を設定する。入学志願者がその第二次試験を受けることができる大学の数は2校までとする」について

(回 答)

前段 a. 賛成する

b. 賛成できない

後段 a. 賛成する

b. 賛成できない

(意見等)

(Ⅱ－2) 「全定員について、現行の第二次募集方式に準じて、前記(A－Ⅱ－1)にいう期間外に第二次試験を実施してもよいこととする」について

(回 答)

a. 賛成する

b. 賛成できない

(意見等)

Ⅲ. 社会の教科において普通科出身受験者に対して「現代社会」を解答科目からはずした場合、これに関連して「倫理、政治・経済」を選択科目の一つとして出題するのが適当と思われますが、これについてのご意見をお示し下さい。

(回 答)

a. 賛成する

b. 賛成できない

(意見等)

Ⅳ. この改革案全体及び共通第1次学力試験の今後の改革についてのご意見がありましたら、ご自由にお書き下さい。

B. Aに関連したアンケート

別紙の改革案について合意が得られるとした場合、貴学ではどのような方針をとろうとお考えですか。現時点でのお考えをお知らせ下さい。なお、ご検討いただく期間が短いので、未定の場合はその旨ご記入下さい。

(1) 共通第1次学力試験について、貴学では受験者にどの教科を課すのが適当とお考えでしょうか。下の欄に○印でお示し下さい。

学 部 等 名	国 語	数 学	外国語	社 会	理 科

(2) 共通第1次学力試験の改革によって、貴学における第二次試験の教科・科目等に変更が見込まれる場合には、その内容をお示し下さい。

(学部等名)

(変更内容)

2 入試改善特別委員会中間報告

国立大学の入学者選抜のあり方の改善をめざして、共通第1次学力試験制度が発足してから7年が経過しようとしている。この間、この新しい制度は、試験問題の質的な向上や、第二次試験をふくむ入学者の選抜方法の多様化などにみるべき成果をあげてきた。

しかしその反面、共通第1次学力試験制度について、さまざまな問題点の指摘がなされてきたこともまた、事実である。たとえば、マーク・シート方式によるテストの技術的限界、いわゆる「輪切り」現象と大学の序列化、5教科7科目の試験がもたらした負担過重感、一期校・二期校制の廃止による受験機会の減少など、批判は多面にわたっている。

こうした批判や指摘は、必ずしもそのすべてについて共通第1次学力試験制度に原因を求めるべきものではない。しかし同時に我々は、この制度に内在的な問題点も少なくないことを、率直に認める必要があるだろう。それだけでなく、この7年間に高校や大学、受験生、さらにはそれを取りまく社会の側に起こった最近の現象には、制度の発足当初の予測をこえるものがあり、これらもまたそのあり方の再検討を求める強い力としてはたらいっている。

こうした問題に対応するために、我々はこれまでも、第二次試験のあり方の改善、入学定員の一部留保の第二次募集による受験機会の複数化、共通第1次学力試験の結果の利用の弾力化（いわゆる「傾斜配点」など）、試験実施期日の繰り下げなど、さまざまな改善の試みを進めてきた。しかし十分解決されないままに残されている問題は、依然として少なくない。

また昭和57年度から新しい学習指導要領が実施された結果、高等学校における教育課程の多様化、さらには選択制の強化による生徒の履修科目の多様化が進み、この面からもこの制度の再検討が、さし迫って必要になりつつある。

こうした現実をふまえて、本委員会では1ヶ年半にわたって、入学者選抜のあるべき姿を求めて、慎重に検討を進めてきた。

共通第1次学力試験を中心とした、現行の入学者選抜のあり方には、すでに述べたように、さまざまな批判や指摘がなされている。問題の抜本的な解決のために、現行制度の廃止を求める声も聞かれる。しかし、国立大学が共同して入学者選抜のあり方の改革を進めるべきだとする共通第1次学力試験制度の発足の理念からするとき、さしあたっては、大学内外の批判に耳を傾けつつ、現行の制度に必要な修正を加え、その改善をはかっていくことが適当であるというのが、本委員会の見解である。

こうした見解のもとに進めてきた検討作業の一応の結論として、我々は以下に述べるような改革案を提示する。

《改 革 案》

I 共通第1次学力試験の利用の方法については、各大学の主体的な判断を尊重する。

- (1) 共通第1次学力試験については国語、数学、外国語、社会、理科の5教科の問題を作成し、試験を実施する。社会、理科の受験科目数は、それぞれ1とする。
- (2) 入学志願者に要求する共通第1次学力試験の受験教科の数は、各大学の決定に委ねる。

II 受験機会の複数化をはかるため、第二次試験の実施期日について、その弾力化をはかり、各大学の主体的な選択に委ねる。

- (1) 原則として第二次試験に一定の実施期間を設け、各大学・学部はこの期間の中で自由に試験期日を設定する。入学志願者がその第二次試験を受けることのできる大学の数は、2校までとする。
- (2) 全定員について、現行の第二次募集方式に準じて、(1)にいう期間外に第二次試験を実施してもよいこととする。

〔説 明〕

1 制度の理念・目的について

共通第1次学力試験を採り入れた現行の制度は、国立大学の入学者選抜のあり方を改善することによって、激しい受験競争のもたらす弊害を除去することを目的に、従来各大学が独自に行ってきた入学試験の一部を共同で実施し、また利用する制度として発足したものである。

この制度の発足当初には、無用な混乱をさけ、またその定着をはかるためもあって、共通第1次学力試験の共通性、共同性の側面が強調され、試験の結果を齊一的に利用することが望ましい方向とされてきた。

しかし共通第1次学力試験は、あくまでも各大学が独自に行うべき入学者選抜の一部を同一化し、共同化したものである。制度がほぼ定着し、試験の結果の画一的な利用が、さまざまな弊害をもたらしつつあるいま、第二次試験だけでなく、共通第1次学力試験の結果の利用についても、各大学の独自の判断を尊重し、選択の幅の一層の拡大をはかる必要があるだろう。

共通第1次学力試験の結果の利用にあたって、「5教科7科目の総点によらず、教科間での重みづけを自由とする」いわゆる「傾斜配点」方式の勧奨は、この方向での改善の努力がすでに始まっていることを意味する。共通第1次学力試験の受験教科について、各大学の主体的な判断を尊重する今回の改革案は、その努力をさらに一歩おし進めようとするものに他ならない。

2 試験実施教科・科目について

共通第1次学力試験の実施教科を国語、数学、外国語、社会、理科とするのは、これら5教科が高校教育の基本教科であるだけでなく、大学における一般教育及び専門教育の学習とも深いかわりをもっており、入学者の選抜基準としてきわめて重要と考えられるためである。

5教科にわたって試験を行うことについては、受験生にとって負担過重であるとの声も聞かれる。しかし5教科のいずれかを試験の対象外とすることは、高校教育への影響という点で問題があり、また試験教科の削減は受験準備の努力を少数の教科に集中させる結果を招きやすく、負担

軽減の面で大きな効果は期待しがたい。

5教科のうち社会と理科については、試験科目数を2から1に減ずることを提案したい。その場合、普通科出身受験者については、「現代社会」及び「理科Ⅰ」は、これを独立の試験科目とすることは必ずしも適当でないと思われるので、普通科出身受験者に対しては、「現代社会」及び「理科Ⅰ」を試験科目からはずすこととする。（「参考資料」次ページ参照）

いわゆる職業科出身受験者等についての扱いは、別途検討する。（「参考資料」次ページ参照）

3 教科・科目の指定について

各大学が入学志願者に要求する共通第1次学力試験の受験教科の数については、それぞれの大学の主体的な判断に委ねることを基本とする、というのが本委員会の見解である。それはどのような水準と特性をもった学力を入学者に要求するかは、基本的に各大学・学部在教育上の目的や方針にそって決められるべきものであり、共通第1次学力試験の制度が、それぞれの大学の必要や自主的な選択を、画一的に拘束するものであってはならないと考えるからである。

ただ、既にみたように、国語、数学、外国語、社会、理科の5教科は高等学校における基本教科であり、また大学入学後の学習の基礎として、重要と考えられるので、本委員会としては一般的には5教科の受験が望ましいと考える。指定する教科の数、種別については、第二次試験のあり方をふくめて、各大学の慎重な検討と選択を希望したい。

教科指定については、それをさらに広げて、たとえば物理、化学、生物、地学のいずれか1科目の受験をあらかじめ指定する「科目指定」をも認めるべきだとする考え方もある。しかしこうした科目指定は、受験生の大学・学部選択の幅を狭くする他、実施上もさまざまな技術的問題が予想されるので、当面科目指定はとらないこととした。各大学の第二次試験での工夫に期待したい。

4 受験機会の複数化について

共通第1次学力試験制度の導入のさいに、従来の一期校・二期校制が廃止され、試験期日が一本化されたことは、国立大学間の格差意識の解消に一定の役割を果たしてきた。しかし同時に国立大学の受験機会が一度に限られることになった結果、思わぬ弊害が生じているとして、強い批判があることもまた、事実である。

これに対処するため、一部の大学において、入学定員の一部留保による二次募集などの改善策がとられてきたが、さらに積極的に、国立大学の第二次試験の受験機会の複数化をはかるべきだというのが、本委員会の見解である。

複数化の具体的な方策としては、かつての一期校・二期校制のように、各大学を受験期日を異にする二つの群に分ける方法も考えられる。しかし各大学の主体的な判断や選択の自由を尊重しつつ、受験機会の複数化をはかるとすれば、第二次試験の実施期間に一定の幅をもたせ、その間のどこに試験期日を設定するかは各大学の自由に委ねることが望ましい。

その場合、技術的には受験生に認める受験大学数は2校以内とし、試験期間は3月上旬の10日間程度、合格発表期日の下限は3月20日頃とするなどの措置が必要となるだろう。この方法をとれば、現在よりも多数の入学辞退者が出ることが予想されるので、例えば、予め、受験生に出願時に志望大学（学部）を複数記入させる等の方法により、欠員補充の業務処理の円滑化について、

今後技術的に十分検討する必要がある。

なお、受験機会の複数化の方法として、全定員について現行の第二次募集方式に準じて、国立大学の未受験者及び他の国立大学に合格しなかった者を対象として3月20日以降に第二次試験を実施する大学があっても差し支えないこととする。また、これまでとられてきた定員留保による二次募集、推薦入学制等も拡大することが望ましい。

付 記

上記の「中間報告」は、共通第1次学力試験を中心とした大学入学者選抜方法にかかわる当面の課題について、本委員会で得られた結論をまとめたものである。討議の過程では、この他にも、次に述べるようなさまざまな問題が改革の課題として提起され、検討された。

共通第1次学力試験の期日や実施の方法、共通第1次学力試験と第二次試験の関係、第二次試験のあり方、共通第1次学力試験結果の受験生への通知の可否、共通第1次学力試験の「資格試験」化の是非、さらには大学入試センターの性格、共通第1次学力試験の存廃など、そこでとりあげられた問題は多岐にわたっている。

今回の「中間報告」において、これらの問題にふれるところがなかったのは、あくまでも時間的な制約によるものであり、問題としての重要性を軽視するものでは全くない。これら制度の根幹にかかわる、長期的な見通しを必要とする諸問題は、今後の検討課題である。

（参考資料）

入試改善特別委員会中間報告における共通第1次学力試験の出題・解答の教科・科目についての説明書

本委員会の入学者選抜方法改善案のうち、共通第1次学力試験の出題5教科の中の社会、理科の科目の取扱いの細目及びいわゆる「職業科」高等学校の出身受験者に対する措置の具体的内容等については、本協会第二常置委員会において更に検討を進めることとなっている。

しかし、本委員会の改善案を、各大学・学部において検討してアンケートに回答していただく際の参考として、本委員会の改善案作成における検討内容を整理して、共通第1次学力試験の出題・解答の教科・科目に関するいくつかの問題点についての説明を以下に述べる。

1 普通科出身受験者について、社会における「現代社会」、理科における「理科Ⅰ」のそれぞれの科目を受験すべき科目からはずすことを提案していることについて

「現代社会」は、現代社会の基本的な諸問題について理解を深め、人間の生き方について自ら考える力を養うことを目的としたものであり、また「理科Ⅰ」は、中学校における理科の学習内容をふまえ、自然科学に関する基本的事項を総合的に教授することを目的に設けられた科目である。いずれもその性格上、各高等学校における教育の内容や方法の独自性を尊重することが望ましく、とくにいわゆる普通科においては、必修科目である「現代社会」及び「理科Ⅰ」の履修の上に立って選択科目の履修がなされるのであるから、その選択科目について試験を行う場合には、その基礎となっている「現代社会」及び「理科Ⅰ」を独立の試験科目とする必要性は少ないと考

えられる。

2 1の提案趣旨からみて、社会の出題科目は、「倫理、政治・経済」、「日本史」、「世界史」、「地理」となることについて

現行の場合の社会では「現代社会と倫理及び政治・経済を合わせたもの」を受験必須としており、ここにいう「倫理、政治・経済」は「現代社会」に代えて履修した内容をさしている。

しかし、前述の1の提案趣旨からすると、改善案の出題科目には、普通科において、「現代社会」の履修の上になって選択科目として履修した「倫理、政治・経済」は、「日本史」、「世界史」、「地理」と同じように出題科目として取り扱われることが適当と考えられる。

3 1に関連して、理科の出題科目は、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」となることと、「理科Ⅰ」との関連について

理科の出題科目は、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」となるが、この際、現行の大学・学部ごとの第二次試験における取扱いと同様に、

『「物理」、「化学」、「生物」、「地学」の出題には、「理科Ⅰ」に含まれるそれぞれの科目の関連内容を含む。』と表示するのが望ましいと考えられる。

4 いわゆる「職業科」高等学校出身受験者に対する措置について

1の趣旨にたつて、いわゆる「職業科」高等学校における社会及び理科の履修状況をみると、「社会」については、「現代社会」(「倫理、政治・経済」の履修にかえたものを含む)の履修の上になつて、「倫理」、「政治・経済」、「日本史」、「世界史」、「地理」の科目を、それぞれの学校の教育課程上の必修又は選択科目として開設しているが、単位数については、標準単位数より少ない単位数で設置していることが多いので、普通科における標準単位数での選択科目の履修と同一視することはできない。

また、個々の学校、学科ごとに履修状況を調査して、取扱いを変えることも困難である。

更に、それぞれの学科ごとの選択科目から、社会及び理科の受験科目を定めるべきであるとの考え方もあるが、このことは、それぞれの学科ごとの履修の状況を更に詳しく調査して検討を加えるべき問題であるので、早急に結論を得ることは困難である。

以上の観点からみて、当面考えうる「職業科」に対する措置としては、
『いわゆる「職業科」出身受験者については、社会における「現代社会」、理科における「理科Ⅰ」をあらかじめ願い出た上で受験することができる。』とすることが望ましいと考えられる。

5 共通第1次学力試験における「現代社会」と「倫理、政治・経済」の出題・解答上の取扱いについて

現行の場合には、高等学校学習指導要領の中で、『当分の間、特に必要のあるときは、「倫理、政治・経済」の履修によって「現代社会」の履修に代えることができる』とされていることに関連して、「現代社会と倫理及び政治・経済を合わせたもの」として出題し、問題の内容とその選択によって、「現代社会」とこれに代えた「倫理、政治・経済」のそれぞれの履修者に対応させている。しかし、2の趣旨から、選択科目としての「倫理、政治・経済」を新たに出題することになれば、その出題は新「現代社会」、新「倫理、政治・経済」となり、普通科出身受験生は、この「倫理、政治・経済」を「日本史」、「世界史」、「地理」と同様に選択受験の対象とし、「職業科」出身受験生は、

普通科出身者と同じ選択をするか、予め願い出てこの「現代社会」を受験するかのいずれかとなる。

3 国立大学入学者選抜方法改革案についてのアンケート集計結果の概要

今回のアンケート各項目のうち、共通第1次学力試験の出題・解答の教科・科目に関する集計結果を、表Ⅰ、表Ⅱ、表Ⅲ、表Ⅳに示し、これらのそれぞれの内容に関する意見、要望等の主な状況を付記した。

受験機会の複数化に関する集計結果は、基本的には大多数の大学が賛成であるが、更にその具体的内容を検討することの要望がつよいので、更に検討の上、御連絡するなかで別途報告の予定である。

入学者選抜方法改善についての、その他の自由記述意見は整理してその要約を示してあるが、ここに示したもの以外についても、本委員会の今後の検討のなかで参考にしたいと考えている。

表Ⅰ. アンケート項目（Ⅰ－1）5教科5科目案に対する回答のまとめ

○ 大学としてまとまった回答	(68大学)
(内別) a . 賛成	57大学
b . 賛成できない	8大学
a ≡ b 賛否相半ばするもの	1大学
a > b 賛成多数	1大学
～ a 消極的賛成	1大学
○ 学部別回答	(24大学)
(内別) a > b 賛成学部が多数	21大学
a = b 賛否学部数同じもの	2大学
a < b 賛成学部が少数	1大学
○ その他の回答	(3大学)
(内別) a > b 賛成多数（百分率意見分布）	1大学
a < b 賛成少数（単一学部部分校別分布）	1大学
回答保留	1大学
○ 合 計	(95大学)

表Ⅱ. アンケート項目（Ⅰ－2）「受験生に課する共通第1次学力試験の教科は大学が定める」に対する回答のまとめ

○ 大学としてまとまった回答	(69大学)
(内別) a . 賛成	57大学
b . 賛成できない	10大学

a ≡ b 賛否相半ばするもの	1大学
a > b 賛成多数	1大学
○ 学部別回答	(22大学)
(内別) a > b 賛成学部が多数	19大学
a = b 賛否学部数同じもの	1大学
a < b 賛成学部が少数	2大学
○ その他の回答	(4大学)
(内別) a > b 賛成多数（百分率意見分布）	1大学
a = b 賛否相半ば（単一学部部分校別分布）	1大学
回答保留	2大学
○ 合 計	(95大学)

表Ⅲ. アンケート項目（Ⅲ）「現代社会」を普通科高校出身受験生の解答科目から除くときに、「倫理、政治・経済」を出題・解答科目に加えること。

○ 大学としてまとまった回答	(76大学)
(内別) a . 賛成	68大学
b . 賛成できない	5大学
a > b 賛成多数	1大学
～ a ほぼ賛成、一部に疑問あり	2大学
○ 学部別回答	(14大学)
(内別) a . (保付) 多数学部賛成一部保留	9大学
a . (未付) 多数学部賛成一部未回答	1大学
a > b 賛成学部多数	2大学
a > b (保付) 賛成学部多数一部保留	2大学
○ その他の回答	(5大学)
(内別) a . (保付) 賛成一部保留付（単一学部部分校別）	1大学
a > b 賛成多数（百分率意見分布）	1大学
回答保留	3大学
○ 合 計	(95大学)

表Ⅳ．アンケートB，各大学・学部が受験生に課す教科数の現時点での予定の回答のまとめ

(a) 大学全体として 5 教科	44大学
(b) { 一部学部は 5 教科 一部学部は 未定	26大学
(c) { 一部学部は 5 教科 一部学部は 4 又は 3 教科	6大学
(内別)	
4 教科 (国・数・社・外)	1 学部
4 又は 3 教科 (5 教科中 4 又は 3)	1 学部
3 教科 (国・社・外)	3 学部
(国・数・外)	2 学部
(数・理・外)	1 学部
(d) 5 教科又は 4 教科 (1 学部—国・数・理・外)	1大学
(e) 3 教科 (1 学部—国・社・外) 及び 2 教科 (1 学部—国・外)	1大学
(f) 大学全体として未定	17大学
合 計	95大学

今回のアンケート回答全体を通じて、改革案に「賛成」、「賛成できない」のいずれかにかかわらず、共通第1次学力試験の理念・目的に関する意見、つまり従来の理念・目的をいささか変更するという立場に国立大学協会が立つのかどうかという質問乃至コメントがあり、又、現行の5教科・7科目制が受験生にとってかならずしも負担過重とは考えられないとする意見もあった。

表Ⅰに関する意見としては、全体としては賛成多数であるが、賛成できないとする意見の主なもの、(1)共通第1次学力試験の理念・目的及び高校教育・大学教育との関連から5教科・7科目を必要とする意見。(2)大学・学部の特徴を活かす為の5教科・6科目コース別実施の意見。(3)同じ理由から5教科・7科目を上限とするア・ラ・カルト方式実施の意見があった。

表Ⅱに関しては、大学が主体的判断によって、受験生に課する共通第1次学力試験の教科の内容を定めることに基本的考え方として賛成が多数であったが、このことが広く行われた場合、共通第1次学力試験の「共通性」が失われるとの意見もあった。

表Ⅲに関しては、賛成多数であるが、普通科高校出身受験生について、「現代社会」と「理科Ⅰ」とを解答科目としないという改革案について、これら2科目は高等学校教育課程における新設科目であり、共通第1次学力試験の科目としても実施直後であり、その分析もなされないままこれを除外する理由がわからないので、5教科・5科目とすることには賛成でも、この件には賛成しがたい

とする意見もある。(この件については、追加説明資料を総会に報告の予定である。)

表Ⅳに関しては、ほとんどの大学が5教科を予定していて、現時点で4教科、3教科、2教科とするものは2大学(計3学部)と、6大学中の一部学部(計8学部)のみである。

アンケート項目(Ⅳ) その他の自由記述意見の要約

共通第1次学力試験の理念的問題についての意見がいくつか見られたが、むしろその存廃問題についてのコメントが多かった。少数ながら、直ちに廃止せよとの意見もあったが、多数を占めたのは;

- (1) 共通第1次学力試験を「資格試験的」なものにせよ。
- (2) 大学入試センターは、大学の為に問題を提供する機関とせよ。

の2種に分類できた。

(1)について、その詳しい内容のはっきりしていないものが多かったが、若干の大学・学部からは、「国立大学への出願資格試験」即ち、全国的二段階選抜の資料とするという趣旨が述べられていた。

(2)については、大学入試センターが単に出題だけを行い、採点は各大学とする意見と、大学入試センターが出題だけではなく採点もするという意見等、内容的には多少の幅があった。

なお、改革案の実施について、その検討期間等を考慮して昭和62年度実施とするのは性急にすぎるとする意見も若干あった。

4 国立大学入学者選抜方法の改革について

- (1) 共通第1次学力試験については、国語、社会、数学、理科、外国語の5教科について試験を実施する。社会、理科の受験科目数はそれぞれ1とする。

入学志願者に要求する共通第1次学力試験の受験教科の数は各大学の決定に委ねる。

ただし、5教科を受験させることが望ましい。

社会については「倫理、政治・経済」、「日本史」、「世界史」、「地理」の内から1科目、理科については「物理」、「化学」、「生物」、「地学」の内から1科目を選択解答させる。

なお、職業科高等学校出身受験者については、その履修の状況に鑑み、「現代社会」と「理科Ⅰ」とを出題科目に加え、あらかじめ願い出て選択解答出来ることとする。

- (2) この改革の実施時期は昭和62年度からとする。

- (3) 国立大学の受験機会の複数化については、引き続き検討を進める。

今回のアンケート回答全体を通じて、改革案に「賛成」、「賛成できない」のいずれかにかならず、共通第1次学力試験の理念・目的に関する意見、つまり従来の理念・目的をいささか変更するという立場に国立大学協会が立つのかどうかという質問乃至コメントがあり、又、現行の5教科・7科目制が受験生にとってかならずしも負担過重とは考えられないとする意見もあった。

意見に関する意見としては、全体としては賛成多数であるが、賛成できないとする意見の主なものは、(1)共通第1次学力試験の理念・目的及び高校教育、大学教育との関連から5教科・7科目を必要とする意見。(2)大学・学部の特徴を活かすのに5教科・6科目コース別実施の意見。(3)同じ理由から5教科・7科目を上限とするア・ラ・カルト方式実施の意見があった。

意見に関しては、大学が主体的判断によって、受験生に課する共通第1次学力試験の教科の内容を定めることに基本的考え方として賛成が多数であったが、このことが広く行われた場合、共通第1次学力試験の「共通性」が失われるとの意見もあった。

意見に関しては、賛成多数であるが、普通科高校出身受験生について、「現代社会」と「理科Ⅰ」とを解答科目としないという改革案について、これら2科目は高等学校教育課程における新設科目であり、共通第1次学力試験の科目としても実施直後であり、その分析もなされないままこれを除外する理由がわからないので、5教科・5科目とすることには賛成でも、この件には賛成しがたい

5 共通第1次学力試験の解答に関し、普通科高等学校出身受験生については、「現代社会」と「理科Ⅰ」とを選択解答の対象としないことの理由の補足説明

今回の改正案において共通第1次学力試験の受験教科・科目を「5教科・7科目」から「5教科・5科目」に減ずることとし、社会及び理科を現行の各2科目受験から、各1科目受験とすることになった。

この社会及び理科を各1科目受験とするのに当たり、その選択解答の対象科目について、

I 社会については、

(A) 「現代社会及び倫理、政治・経済」、「日本史」、「世界史」、「地理」のうちから1科目を選択解答させる案と、

(B) 「倫理、政治・経済」、「日本史」、「世界史」、「地理」のうちから1科目を選択解答させる案とが考えられる。

この2案のうち、(A)とする場合には、高等学校第1学年で履修する必修科目としての「現代社会（倫理、政治・経済によるおきかえの履修を含む。）」と、第2、第3学年における「現代社会」の履修の上に立った選択科目の「日本史」、「世界史」、「地理」とが同列の選択解答の対象となり、この為、必修科目としての「現代社会」を受験生が選択解答する場合に備えて、第2次試験において、選択科目の「日本史」、「世界史」、「地理」の学力試験を行う必要が生ずるとする大学・学部が予想され、共通第1次学力試験、大学・学部ごとの第2次試験を通じては、かえって受験生の負担が増大することも考えられる。

この為、本委員会としては、上述の(B)の内容を原案として採用したわけである。

この(B)案の内容は、必修科目としての「現代社会」の履修をふまえた上で、選択科目としての「倫理、政治・経済」、「日本史」、「世界史」、「地理」のうちから1科目を選択解答させるものである。

II 理科については、

(A) 「理科Ⅰ」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」のうちから1科目を選択解答させる案と、

(B) 「物理」、「化学」、「生物」、「地学」のうちから1科目を選択解答させる案とが考えられる。

この2案のうち(A)とする場合は、社会と同様に、第2次試験での出題の増加を招くおそれがあり、本委員会は、必修科目としての「理科Ⅰ」の履修をふまえて、選択科目中から1科目を選択解答させることとした。ただし、この場合の「物理」、「化学」、「生物」、「地学」の各科目には、「理科Ⅰ」に含まれるそれぞれの科目の関連内容を含めて出題することとなる。

このような理由で普通科高等学校出身受験生について、「現代社会」と「理科Ⅰ」を選択解答科目から除外したわけであるから、このことが、これらの両科目の履修について、影響をもたらすことのないよう高等学校側の理解と配慮を期待するものである。

第1回 (昭和57年7月27日) 第1回委員会第1回第2回第3回第4回第5回第6回第7回第8回第9回第10回第11回第12回第13回第14回第15回第16回第17回第18回第19回第20回第21回第22回第23回第24回第25回第26回第27回第28回第29回第30回第31回第32回第33回第34回第35回第36回第37回第38回第39回第40回第41回第42回第43回第44回第45回第46回第47回第48回第49回第50回第51回第52回第53回第54回第55回第56回第57回第58回第59回第60回第61回第62回第63回第64回第65回第66回第67回第68回第69回第70回第71回第72回第73回第74回第75回第76回第77回第78回第79回第80回第81回第82回第83回第84回第85回第86回第87回第88回第89回第90回第91回第92回第93回第94回第95回第96回第97回第98回第99回第100回第101回第102回第103回第104回第105回第106回第107回第108回第109回第110回第111回第112回第113回第114回第115回第116回第117回第118回第119回第120回第121回第122回第123回第124回第125回第126回第127回第128回第129回第130回第131回第132回第133回第134回第135回第136回第137回第138回第139回第140回第141回第142回第143回第144回第145回第146回第147回第148回第149回第150回第151回第152回第153回第154回第155回第156回第157回第158回第159回第160回第161回第162回第163回第164回第165回第166回第167回第168回第169回第170回第171回第172回第173回第174回第175回第176回第177回第178回第179回第180回第181回第182回第183回第184回第185回第186回第187回第188回第189回第190回第191回第192回第193回第194回第195回第196回第197回第198回第199回第200回第201回第202回第203回第204回第205回第206回第207回第208回第209回第210回第211回第212回第213回第214回第215回第216回第217回第218回第219回第220回第221回第222回第223回第224回第225回第226回第227回第228回第229回第230回第231回第232回第233回第234回第235回第236回第237回第238回第239回第240回第241回第242回第243回第244回第245回第246回第247回第248回第249回第250回第251回第252回第253回第254回第255回第256回第257回第258回第259回第260回第261回第262回第263回第264回第265回第266回第267回第268回第269回第270回第271回第272回第273回第274回第275回第276回第277回第278回第279回第280回第281回第282回第283回第284回第285回第286回第287回第288回第289回第290回第291回第292回第293回第294回第295回第296回第297回第298回第299回第300回第301回第302回第303回第304回第305回第306回第307回第308回第309回第310回第311回第312回第313回第314回第315回第316回第317回第318回第319回第320回第321回第322回第323回第324回第325回第326回第327回第328回第329回第330回第331回第332回第333回第334回第335回第336回第337回第338回第339回第340回第341回第342回第343回第344回第345回第346回第347回第348回第349回第350回第351回第352回第353回第354回第355回第356回第357回第358回第359回第360回第361回第362回第363回第364回第365回第366回第367回第368回第369回第370回第371回第372回第373回第374回第375回第376回第377回第378回第379回第380回第381回第382回第383回第384回第385回第386回第387回第388回第389回第390回第391回第392回第393回第394回第395回第396回第397回第398回第399回第400回第401回第402回第403回第404回第405回第406回第407回第408回第409回第410回第411回第412回第413回第414回第415回第416回第417回第418回第419回第420回第421回第422回第423回第424回第425回第426回第427回第428回第429回第430回第431回第432回第433回第434回第435回第436回第437回第438回第439回第440回第441回第442回第443回第444回第445回第446回第447回第448回第449回第450回第451回第452回第453回第454回第455回第456回第457回第458回第459回第460回第461回第462回第463回第464回第465回第466回第467回第468回第469回第470回第471回第472回第473回第474回第475回第476回第477回第478回第479回第480回第481回第482回第483回第484回第485回第486回第487回第488回第489回第490回第491回第492回第493回第494回第495回第496回第497回第498回第499回第500回第501回第502回第503回第504回第505回第506回第507回第508回第509回第510回第511回第512回第513回第514回第515回第516回第517回第518回第519回第520回第521回第522回第523回第524回第525回第526回第527回第528回第529回第530回第531回第532回第533回第534回第535回第536回第537回第538回第539回第540回第541回第542回第543回第544回第545回第546回第547回第548回第549回第550回第551回第552回第553回第554回第555回第556回第557回第558回第559回第560回第561回第562回第563回第564回第565回第566回第567回第568回第569回第570回第571回第572回第573回第574回第575回第576回第577回第578回第579回第580回第581回第582回第583回第584回第585回第586回第587回第588回第589回第590回第591回第592回第593回第594回第595回第596回第597回第598回第599回第600回第601回第602回第603回第604回第605回第606回第607回第608回第609回第610回第611回第612回第613回第614回第615回第616回第617回第618回第619回第620回第621回第622回第623回第624回第625回第626回第627回第628回第629回第630回第631回第632回第633回第634回第635回第636回第637回第638回第639回第640回第641回第642回第643回第644回第645回第646回第647回第648回第649回第650回第651回第652回第653回第654回第655回第656回第657回第658回第659回第660回第661回第662回第663回第664回第665回第666回第667回第668回第669回第670回第671回第672回第673回第674回第675回第676回第677回第678回第679回第680回第681回第682回第683回第684回第685回第686回第687回第688回第689回第690回第691回第692回第693回第694回第695回第696回第697回第698回第699回第700回第701回第702回第703回第704回第705回第706回第707回第708回第709回第710回第711回第712回第713回第714回第715回第716回第717回第718回第719回第720回第721回第722回第723回第724回第725回第726回第727回第728回第729回第730回第731回第732回第733回第734回第735回第736回第737回第738回第739回第740回第741回第742回第743回第744回第745回第746回第747回第748回第749回第750回第751回第752回第753回第754回第755回第756回第757回第758回第759回第760回第761回第762回第763回第764回第765回第766回第767回第768回第769回第770回第771回第772回第773回第774回第775回第776回第777回第778回第779回第780回第781回第782回第783回第784回第785回第786回第787回第788回第789回第790回第791回第792回第793回第794回第795回第796回第797回第798回第799回第800回第801回第802回第803回第804回第805回第806回第807回第808回第809回第810回第811回第812回第813回第814回第815回第816回第817回第818回第819回第820回第821回第822回第823回第824回第825回第826回第827回第828回第829回第830回第831回第832回第833回第834回第835回第836回第837回第838回第839回第840回第841回第842回第843回第844回第845回第846回第847回第848回第849回第850回第851回第852回第853回第854回第855回第856回第857回第858回第859回第860回第861回第862回第863回第864回第865回第866回第867回第868回第869回第870回第871回第872回第873回第874回第875回第876回第877回第878回第879回第880回第881回第882回第883回第884回第885回第886回第887回第888回第889回第890回第891回第892回第893回第894回第895回第896回第897回第898回第899回第900回第901回第902回第903回第904回第905回第906回第907回第908回第909回第910回第911回第912回第913回第914回第915回第916回第917回第918回第919回第920回第921回第922回第923回第924回第925回第926回第927回第928回第929回第930回第931回第932回第933回第934回第935回第936回第937回第938回第939回第940回第941回第942回第943回第944回第945回第946回第947回第948回第949回第950回第951回第952回第953回第954回第955回第956回第957回第958回第959回第960回第961回第962回第963回第964回第965回第966回第967回第968回第969回第970回第971回第972回第973回第974回第975回第976回第977回第978回第979回第980回第981回第982回第983回第984回第985回第986回第987回第988回第989回第990回第991回第992回第993回第994回第995回第996回第997回第998回第999回第1000回第1001回第1002回第1003回第1004回第1005回第1006回第1007回第1008回第1009回第1010回第1011回第1012回第1013回第1014回第1015回第1016回第1017回第1018回第1019回第1020回第1021回第1022回第1023回第1024回第1025回第1026回第1027回第1028回第1029回第1030回第1031回第1032回第1033回第1034回第1035回第1036回第1037回第1038回第1039回第1040回第1041回第1042回第1043回第1044回第1045回第1046回第1047回第1048回第1049回第1050回第1051回第1052回第1053回第1054回第1055回第1056回第1057回第1058回第1059回第1060回第1061回第1062回第1063回第1064回第1065回第1066回第1067回第1068回第1069回第1070回第1071回第1072回第1073回第1074回第1075回第1076回第1077回第1078回第1079回第1080回第1081回第1082回第1083回第1084回第1085回第1086回第1087回第1088回第1089回第1090回第1091回第1092回第1093回第1094回第1095回第1096回第1097回第1098回第1099回第1100回第1101回第1102回第1103回第1104回第1105回第1106回第1107回第1108回第1109回第1110回第1111回第1112回第1113回第1114回第1115回第1116回第1117回第1118回第1119回第1120回第1121回第1122回第1123回第1124回第1125回第1126回第1127回第1128回第1129回第1130回第1131回第1132回第1133回第1134回第1135回第1136回第1137回第1138回第1139回第1140回第1141回第1142回第1143回第1144回第1145回第1146回第1147回第1148回第1149回第1150回第1151回第1152回第1153回第1154回第1155回第1156回第1157回第1158回第1159回第1160回第1161回第1162回第1163回第1164回第1165回第1166回第1167回第1168回第1169回第1170回第1171回第1172回第1173回第1174回第1175回第1176回第1177回第1178回第1179回第1180回第1181回第1182回第1183回第1184回第1185回第1186回第1187回第1188回第1189回第1190回第1191回第1192回第1193回第1194回第1195回第1196回第1197回第1198回第1199回第1200回第1201回第1202回第1203回第1204回第1205回第1206回第1207回第1208回第1209回第1210回第1211回第1212回第1213回第1214回第1215回第1216回第1217回第1218回第1219回第1220回第1221回第1222回第1223回第1224回第1225回第1226回第1227回第1228回第1229回第1230回第1231回第1232回第1233回第1234回第1235回第1236回第1237回第1238回第1239回第1240回第1241回第1242回第1243回第1244回第1245回第1246回第1247回第1248回第1249回第1250回第1251回第1252回第1253回第1254回第1255回第1256回第1257回第1258回第1259回第1260回第1261回第1262回第1263回第1264回第1265回第1266回第1267回第1268回第1269回第1270回第1271回第1272回第1273回第1274回第1275回第1276回第1277回第1278回第1279回第1280回第1281回第1282回第1283回第1284回第1285回第1286回第1287回第1288回第1289回第1290回第1291回第1292回第1293回第1294回第1295回第1296回第1297回第1298回第1299回第1300回第1301回第1302回第1303回第1304回第1305回第1306回第1307回第1308回第1309回第1310回第1311回第1312回第1313回第1314回第1315回第1316回第1317回第1318回第1319回第1320回第1321回第1322回第1323回第1324回第1325回第1326回第1327回第1328回第1329回第1330回第1331回第1332回第1333回第1334回第1335回第1336回第1337回第1338回第1339回第1340回第1341回第1342回第1343回第1344回第1345回第1346回第1347回第1348回第1349回第1350回第1351回第1352回第1353回第1354回第1355回第1356回第1357回第1358回第1359回第1360回第1361回第1362回第1363回第1364回第1365回第1366回第1367回第1368回第1369回第1370回第1371回第1372回第1373回第1374回第1375回第1376回第1377回第1378回第1379回第1380回第1381回第1382回第1383回第1384回第1385回第1386回第1387回第1388回第1389回第1390回第1391回第1392回第1393回第1394回第1395回第1396回第1397回第1398回第1399回第1400回第1401回第1402回第1403回第1404回第1405回第1406回第1407回第1408回第1409回第1410回第1411回第1412回第1413回第1414回第1415回第1416回第1417回第1418回第1419回第1420回第1421回第1422回第1423回第1424回第1425回第1426回第1427回第1428回第1429回第1430回第1431回第1432回第1433回第1434回第1435回第1436回第1437回第1438回第1439回第1440回第1441回第1442回第1443回第1444回第1445回第1446回第1447回第1448回第1449回第1450回第1451回第1452回第1453回第1454回第1455回第1456回第1457回第1458回第1459回第1460回第1461回第1462回第1463回第1464回第1465回第1466回第1467回第1468回第1469回第1470回第1471回第1472回第1473回第1474回第1475回第1476回第1477回第1478回第1479回第1480回第1481回第1482回第1483回第1484回第1485回第1486回第1487回第1488回第1489回第1490回第1491回第1492回第1493回第1494回第1495回第1496回第1497回第1498回第1499回第1500回第1501回第1502回第1503回第1504回第1505回第1506回第1507回第1508回第1509回第1510回第1511回第1512回第1513回第1514回第1515回第1516回第1517回第1518回第1519回第1520回第1521回第1522回第1523回第1524回第1525回第1526回第1527回第1528回第1529回第1530回第1531回第1532回第1533回第1534回第1535回第1536回第1537回第1538回第1539回第1540回第1541回第1542回第1543回第1544回第1545回第1546回第1547回第1548回第1549回第1550回第1551回第1552回第1553回第1554回第1555回第1556回第1557回第1558回第1559回第1560回第1561回第1562回第1563回第1564回第1565回第1566回第1567回第1568回第1569回第1570回第1571回第1572回第1573回第1574回第1575回第1576回第1577回第1578回第1579回第1580回第1581回第1582回第1583回第1584回第1585回第1586回第1587回第1588回第1589回第1590回第1591回第1592回第1593回第1594回第1595回第1596回第1597回第1598回第1599回第1600回第1601回第1602回第1603回第1604回第1605回第1606回第1607回第1608回第1609回第1610回第1611回第1612回第1613回第1614回第1615回第1616回第1617回第1618回第1619回第1620回第1621回第1622回第1623回第1624回第1625回第1626回第1627回第1628回第1629回第1630回第1631回第1632回第1633回第1634回第1635回第1636回第1637回第1638回第1639回第1640回第1641回第1642回第1643回第1644回第1645回第1646回第1647回第1648回第1649回第1650回第1651回第1652回第1653回第1654回第1655回第1656回第1657回第1658回第1659回第1660回第1661回第1662回第1663回第1664回第1665回第1666回第1667回第1668回第1669回第1670回第1671回第1672回第1673回第1674回第1675回第1676回第1677回第1678回第1679回第1680回第1681回第1682回第1683回第1684回第1685回第1686回第1687回第1688回第1689回第1690回第1691回第1692回第1693回第1694回第1695回第1696回第1697回第1698回第1699回第1700回第1701回第1702回第1703回第1704回第1705回第1706回第1707回第1708回第1709回第1710回第1711回第1712回第1713回第1714回第1715回第1716回第1717回第1718回第1719回第1720回第1721回第1722回第1723回第1724回第1725回第1726回第1727回第1728回第1729回第1730回第1731回第1732回第1733回第1734回第1735回第1736回第1737回第1738回第1739回第1740回第1741回第1742回第1743回第1744回第1745回第1746回第1747回第1748回第1749回第1750回第1751回第1752回第1753回第1754回第1755回第1756回第1757回第1758回第1759回第1760回第1761回第1762回第1763回第1764回第1765回第1766回第1767回第1768回第1769回第1770回第1771回第1772回第1773回第1774回第1775回第1776回第1777回第1778回第1779回第1780回第1781回第1782回第1783回第1784回第1785回第1786回第1787回第1788回第1789回第1790回第1791回第1792回第1793回第1794回第1795回第1796回第1797回第1798回第1799回第1800回第1801回第1802回第1803回第1804回第1805回第1806回第1807回第1808回第1809回第1810回第1811回第1812回第1813回第1814回第1815回第1816回第1817回第1818回第1819回第1820回第1821回第1822回第1823回第1824回第1825回第1826回第1827回第1828回第1829回第1830回第1831回第1832回第1833回第1834回第1835回第1836回第1837回第1838回第1839回第1840回第1841回第1842回第1843回第1844回第1845回第1846回第1847回第1848回第1849回第1850回第1851回第1852回第1853回第1854回第1855回第1856回第1857回第1858回

6 臨時教育審議会 審議経過の概要 (その2)(抄)

(臨時教育審議会)
(昭和60年4月24日)

第4部会

1 これまでの審議状況

高等教育の改革を審議事項とする第4部会は、昭和59年11月14日以来今日まで18回の会合及び大学入試制度について意見を聴く会を開催した。その開催状況及び審議の内容は次のとおりである。

〈第4部会の開催状況〉

- | | | |
|-----|----------------|---|
| 第1回 | [59年11月14日(水)] | ○検討課題等について |
| 第2回 | [59年11月21日(水)] | ○ヒアリング 「高等教育制度の概要」
文部省高等教育局 |
| 第3回 | [59年12月3日(月)] | ○ヒアリング 「高等教育計画の概要」
文部省高等教育局 |
| 第4回 | [59年12月17日(月)] | ○ヒアリング 「大学の設置に関する制度と現状」
文部省高等教育局 |
| 第5回 | [60年1月7日(月)] | ○ヒアリング 「大学を中心とした学術研究の現状について」
文部省学術国際局長 |
| 第6回 | [60年1月14日(月)] | ○ヒアリング 「入試の制度と現状について」
文部省高等教育局長
谷田閼次氏 (大学入学者選抜方法の改善に関する会議会長、群馬県立女子大学長)
「能力の評価方法等について」
芝祐順氏 (東京大学教授) |
| 第7回 | [60年1月17日(木)] | ○ヒアリング 「後期中等教育について」
奥田真丈氏 (横浜国立大学教授)
「一般教育について」
原 一雄氏 (国際基督教大学教授)
「進路指導の状況」
佐藤允彦氏 (東京都立永福高等学校教諭)
安田嘉男氏 (埼玉県立川越工業高等学校教諭) |
| 第8回 | [60年1月21日(月)] | ○ヒアリング 「予備校の状況について」
山崎春之氏 (駿河台学園理事長) |

- | | | |
|-----------------|----------------------|---|
| | | 「学歴と雇用について」
江副浩正氏 (株リクルート代表取締役) |
| 第9回 | [60年1月28日(月)] | ○大学入試センター視察 |
| 第10回 | [60年2月4日(月)] | ○ヒアリング 「入試制度の変遷、諸外国の状況、入試の理念について」
天野郁夫氏 (東京大学教授) |
| 第11回 | [60年2月7日(木)] | ○ヒアリング 「入試について」
原田三朗氏 (毎日新聞編集委員兼論説委員)
黒羽亮一 専門委員
丸井文男氏 (愛知教育大学長) |
| 第12回 | [60年2月18日(月)] | ○ヒアリング 「専修学校等との連携について」
斎藤健次郎氏 (宇都宮大学教授)
「入学時期について」
文部省高等教育局長
石井公一郎 専門委員 |
| 第13回 | [60年2月20日(水)～21日(木)] | ○合宿集中審議 |
| 第14回 | [60年2月25日(月)] | ○関係団体等意見聴取
「高等教育と中等教育の接続に関する諸問題について」
全国専修学校各種学校総連合会
日本私立短期大学協会
大学基準協会 |
| 第15回 | [60年3月11日(月)] | ○関係団体等意見聴取
「高等教育と中等教育の接続に関する諸問題について」
全国普通科高等学校長会
全国商業高等学校長協会
公立大学協会
日本国際教育協会 |
| 第16回 | [60年3月18日(月)] | ○関係団体等意見聴取
「高等教育と中等教育の接続に関する諸問題について」
日本私立大学団体連合会
全国公立短期大学協会
国立大学協会 |
| 第17回 | [60年3月27日(水)] | ○審議経過の概要(その2)部会案について |
| 第18回 | [60年4月1日(月)] | ○審議経過の概要(その2)部会案について |
| 〈第3・4合同部会の開催状況〉 | | |
| 第1回 | [60年2月13日(水)] | ○意見交換
「大学入試、入学資格、9月入学、教員養成について」 |

大学入試制度について意見を聴く会〔60年4月4日(木)〕

第1回会合で部会としての検討課題について討議した。今後の社会においては、情報化、国際化、高齢化、余暇の増大、価値観の多様化等が更に進展するものと思われ、高等教育の場においても、これらの変化にいかに対応するかを検討することが緊要の課題となっている。言うまでもなく、我が国の現状及び将来を考える時、国公私立を通じて高等教育のより一層の改革・充実を実現することは、極めて重要な教育の基本的課題である。具体的には、高等教育と中等教育の接続、高等教育の国際化、科学技術と大学の研究機能、大学における一般教育と専門教育の在り方、大学院の在り方、さらには高等教育の基準や組織と運営、高等教育財政の在り方等の諸問題について基本的な見直しが必要と考えられる。第4部会においては、これらの問題について今後逐次検討することとしているが、当面、高等教育と中等教育の接続にかかわる諸問題、ことに大学入学者選抜制度について検討することとした。

2 高等教育と中等教育の接続の問題

(1) 問題を取り上げるに当たっての考え方

当部会が当面の検討課題として、高等教育と中等教育の接続の諸問題、とりわけ大学入学者選抜制度を取り上げたのは、次のような問題意識に基づくものである。

- (ア) 我が国では現在、大学への進学をめぐる、特定大学への過度の入学希望者の集中、偏差値によるいわゆる輪切り現象、それに伴う大学の序列化などの状況が徹底し、受験競争が偏った形で過熱化している。このことが、高等学校以下の学校教育の内容にひずみを与え、児童生徒の心身の健全な育成をも妨げている面があることは否定できない。一つの社会的問題として国民が切実な関心を寄せている理由もこの点にあると思われる。
- (イ) のみならず、高等学校への進学率が90%を超え、その教育内容が多様化する一方、大学に学ぶ者の数も著しく増大し、高等教育が多彩となっている状況に対応して、高等教育と中等教育の適切な接続の在り方を考えることは、そのこと自体緊要である。また、その在り方は、高等教育や中等教育自体の在り方にも影響をもたらすものである。
- (ウ) 未来を展望すると、個性において豊かで、創造性、先見性に富む人材を育成することが重要であり、また生涯教育、生涯学習への志向はますます大きくなるであろう。さらに、我が国の教育を国際社会の中に位置付けて構想する需要が増すと思われる。教育のすべてがこれらの要請にこたえなくてはならないのであり、入学者選抜制度も、その枠外にあるわけではない。
- (エ) 以上のような諸問題を受け止め、高等教育と中等教育の接続の在り方を改善していくためには、学力試験のみでなく、より多様な入学者選抜の方法に留意するとともに、大学入学資格、高等学校・中学校等における進路指導、高等教育機関と中等教育機関の協力態勢、両者の教育内容の連携など、広く関連する事柄にも検討を加える必要がある。
- (オ) 大学の入学者選抜は、本来大学が自らその方針を定め、独自の見識に基づいて行うべきものであり、我々はその良識に信頼し、それぞれの大学がその教育理念に立脚して、特色ある選抜方法を発展させるよう努力することを期待する。しかし、大学の入学者選抜の在り方は、大学の自主努力を超えた部分で、高等学校以下の学校教育全般ならびに社会に影響するところが少

なくない。これが、臨時教育審議会として関心を寄せ、当部会の検討課題として取り上げる理由である。

- (カ) 高等学校段階であろうと、大学段階であろうと入学者選抜は避けることのできないものであるが、入学者選抜を「必要悪」というように否定的にばかりとらえることは適切ではないと考える。それは入学志願者にとっては、自己の将来を考え、能力・適性などに応じて進路を選択し、挑戦する機会であり、入学を認める側にあつては、教育方針や教育内容など、その特色にふさわしい学生を選抜する場である。このような選抜制度の本来の趣旨に沿いつつ、できるだけその弊害を取り除きたいというのが当部会の意図するところである。

(2) 検討に当たって留意した事項

高等教育と中等教育の接続、とりわけ大学入学者選抜に関する諸問題は、単にその制度本来の在り方に起因するものではなく、教師、学生生徒、さらには広く国民の意識、社会・経済の状況等様々な要因が複雑に絡み合つて生じているものである。したがって、入学者選抜制度の改善によって諸問題が一挙にすべて解決するものではない。当部会においては、このことを十分認識し、より良い制度の実現を期して検討を行う必要があるとの共通認識が得られた。

- (ア) 高等教育への進学を希望する者に対して選抜を行うのは、高等教育の分野によっては、それぞれ一定の資質や適性がそこに学ぶ者に要求されるためであり、また進学希望者の数に比べて、高等教育の全体及び個別の分野の収容力に限りがあるためである。このことは高等教育の在り方と本質的にかかわり、社会がどれほどの規模と内容の高等教育を必要とし、それを維持することができるかに関連する。この点については、入学者選抜制度の改善と並行して、詳細な検討を重ねなくてはならないが、とりあえず現在の段階で、我が国社会の将来を考えると、広義の高等教育すなわち大学及び大学以外の種々の組織を含めた中等後教育においては、今後量、質ともに整備が要請されているといえよう。
- (イ) 大学入学者選抜にかかわる諸問題は、就職、採用、人物評価など社会の様々な場面での学歴偏重、特定校重視の風潮に由来するところが少なくなく、一部の職域では学閥主義の傾向なしとしない。このような慣行、風潮の是正に取り組むことが基本的に重要であり、第2部会等での今後の検討に期待するところは大きい。
- (ウ) 我が国の社会では、入学者選抜においても、学力検査の点数を重視し、その客観性と公正性に依存する傾向が根強くみられる。そのこと自体は理由のあることであるが、入学者選抜方法の質的改善を図るためには、人間を多面的に評価し、推薦入学制度を実施した場合の責任と信頼を尊重するなど、ゆとりある、しかも公正な態度が広く社会に許容され、支持されるようにならなければならない。
- (エ) また、入学者選抜が厳格であるのに対し、進級・卒業が比較的容易であるという現状を是正し、大学における教育をより充実させるとともに、入学後の学業評価をより厳しくし、大学の教育責任を果たすということは、もとより必要である。
- (オ) 入学者選抜制度の改善は、それに関係する各方面で絶えず努力を重ねるべき問題である。一時期の一つの改革で、欠陥がすべて解消することはあり得ない。また、ある欠陥を取り除くための改善の措置が、新たな別の欠陥を生むこともあることから、不断の見直しが必要である。

なお、その際、入学者選抜制度は、これから大学へ進学しようと志している青少年の学習と生活に深くかかわっているので、相当期間ある程度の安定性を保つ必要があるということにも留意しなければならない。

- (カ) 近い将来に予想される問題は、昭和67年度をピークとする、18歳人口の急増である。この急増期への対応策としては、大学設置審議会大学設置計画分科会により「高等教育の計画的整備」が立案されているが、その計画の着実な実現のための諸方策の実施が必要である。それなしに、入学者選抜制度の改善のみでは、急増期における受験競争の激化は避けられない。

3 大学入学者選抜制度改革について

(1) 大学入学者選抜制度の経緯と現状

ア. 大学入学者選抜制度の変遷

- (ア) 明治5年の学制公布以来、高等教育機関の整備が進むにつれ、高等教育への進学者も次第に増加し、それに伴い、入学者選抜制度も様々の変遷を重ねてきた。旧制高等学校の場合、推薦入学制、共通試験による総合選抜制、学校を二群に分けた二班試験制等が試みられた時期がある。昭和の初めからは、各学校ごとに学科試験、調査書、口頭試問、身体検査による総合判定制がとられた。

- (イ) 戦後、新制大学が発足してからは、文部省が示す「大学入学者選抜実施要項」を基に、各大学が学力検査、調査書、身体検査を総合して選抜を行うこととされ、昭和42年には推薦入学制を採用、また54年度以降、国公立大学については共通1次試験が加えられた。またこの間には、進学適性検査が実施され、あるいは能研テストが試行された時期もある。

イ. 共通1次試験の導入とその評価

- (ア) 大学入学者選抜制度の改善のための共通試験の導入は、昭和38年の中央教育審議会答申において提案され、続いて46年の中央教育審議会答申では、

「(1) 高等学校の学習成果を公正に表示する調査書を選抜の基礎資料とすること。

(2) 広域的な共通テストを開発し、高等学校間の評価水準の格差を補正するための方法として利用すること。

(3) 大学が必要とする場合には、進学しようとする専門分野においてとくに重視される特定の能力についてテストを行い、または論文テストや面接を行ってそれらの結果を総合的な判定の資料に加えること。」が示された。

- (イ) この間我が国における大学・短期大学進学者は急激に増加し、昭和30年に国公立大学合わせて学生数約60万人であったものが、40年には100万人を超え、50年には208万人、53年には224万人を数え、進学率は、30年に約10%に過ぎなかったものが、41年には16.1%、51年には38.6%に達した。それに加えて、昭和41年をピークに18歳人口が急増し、それまで70%近くにまで上昇していた大学・短期大学合格率は、この期に62%にまで低下し、入学難を強めた。ことに、昭和30年から50年までの大学拡張期に、私立大学が約30万人から約130万人へとおよそ100万人近い学生増を行ったのに対し、国立大学の学生数の伸びは約18万人から約35万人と、実数にして17万人の増に過ぎなかった。このため国立大学への入学機会の問題はとりわけ強い社会的関

心の的となった。

- (ウ) こうした事態に対処するため、国立大学協会は昭和46年から検討を始め、それまでの大学入試には、

a. 1回の選抜試験によって入学の適否を判定することについて、いわゆる「一発勝負」との批判のあること、

b. 学力検査の教科・科目の設定や評価の在り方が、受験生の適性の的確な判定には必ずしも適切でないこと、

c. 総合力や思考力などを判定する上で必ずしも妥当ではないこと、など反省すべきところがあるとして、その是正を目指して共通1次試験実施に踏み切る方針を決め、54年度からこれを実施に移した。国立大学の入学試験を1次、2次に分け、第1次試験は国立大学共同で行い、高等学校における一般的学習の達成程度を測定しようとするものである。これに対して第2次試験では、各大学・学部・学部の目的・特色、専門分野の特性にふさわしい能力・適性を多面的に判断しようとするものである。それによって、

a. 多少とも高等学校における教育の正常化に寄与し、

b. 入学試験問題の適切化ならびに「一発勝負」による判定の是正に資することができ、

c. 受験生に対しより適正な客観的判定をなし得る、

などが期待できるとしたのである。同時に、従来の1期校・2期校の制度には弊害が多いという理由によってこれを廃止し、国立大学2次試験の期日を一本化した。また公立大学もこの制度の趣旨に賛同して参加した。

- (エ) 共通1次試験導入以来現在まで7年を経過しているが、これについては様々の評価が行なわれている。積極的評価としては、

a. いわゆる難問・奇問がなくなり、高等学校教育に沿った適切な出題が行われるようになった、

b. 2次試験との組み合わせによる総合判定の結果、より行き届いた判定が可能となった、

c. 2次試験において、面接・小論文・実技検査など、学力検査以外の選抜方法上の改善が可能となり、しかもそれらを実行するゆとりが生じた、

等が挙げられる。しかし反面、

a. 以前から存在した大学のゆるい序列化が共通1次試験によって一層徹底し、いわゆる輪切り現象が進んだ、

b. 進路指導が偏差値重視に偏り、不本意入学の傾向を助長した、

c. 共通1次試験の5教科7科目と2次試験の組み合わせは受験生にとって負担過重となり、また国立大学と私立大学との併願が難しくなった、

d. 国立大学の受験機会がほぼ1回に制限された、

e. 高等学校職業科卒業生の受験が一層不利となった、

f. 2次試験の多様化が不十分であり、国公立大学の入学試験はむしろ画一化を深めた、等の問題点が指摘されており、また、共通1次試験の自己採点の集計・分析、模擬試験回数の増加などいわゆる受験産業の過度の介入の弊害を憂慮する意見も少なくない。

ウ．私立大学における入学者選抜

私立大学の入学者選抜も文部省の示す「大学入学者選抜実施要項」を基に、各大学がその建学の精神や独自の学風を生かしつつ個別に行っており、それぞれ工夫、改善に努めている。例えば、学力の程度を高等学校の調査書により判定する推薦入学は国公立大学でも行われているが、私立大学ではより広範に行われているなど、種々の工夫がみられる。しかし多くの大学では大量の受験生に対し、短期間に対応せざるを得ないため、2次に分けている国公立大学以上に一発勝負的な学力検査に偏り、また高等学校教育の範囲を超えた難問・奇問の類も散見される。また、小規模大学では問題の作成、出題内容の適正確保が困難となっている場合もある。

(2) 改革の視点と方向

以上のような経緯と現状を踏まえて、大学入学者選抜制度改革について討議を重ねた結果、おおむね以下のような見解に到達した。

ア．改革のための視点

(ア) 大学の入学者選抜は、大学にとっては、高等学校教育の達成度の評価を通じて、それぞれの大学・学部教育に必要な基礎的能力・適性を有する者の選抜の場であり、入学志願者にとっては、自らの能力・適性・志望に応じた進路選択の場である。望ましい大学入学者選抜の在り方は、入学志願者の高等学校段階での学習や課外活動の成果が正当に評価され、能力・適性・志望に応じた進学が確保されることにある。

(イ) 今後高等教育の個性化、多様化が一層推進されるべきことを考えると、大学入学者選抜方法についてもその個性化、多様化を進める必要があり、入学者選抜に当たっての評価基準も多様化し、多元化しなければならない。

(ウ) 大学入学者選抜は基本的に各大学が期している教育研究の水準に沿って、責任をもって自主的に行われるべきものであり、その改革に当たっても各大学の自主性が確保されなければならない。他面、今日の社会では高等学校教育の正常化など、選抜の公共性にも配慮しなければならない。このある意味では矛盾する二つの要請をどう調和させていくかは、国公立大学全体の問題であり、学生数の約80%を占める私立大学を抜きにしては考えられない。

(エ) 国立大学協会においては昭和57年度以来、共通1次試験について、試験教科・科目数の削減、利用方法の弾力化、2次試験受験機会の複数化、試験期日の繰り下げなどの改善策を検討している。しかし当部会ではこれらの動向を考慮に入れつつも、より長期的な観点に立ち、国公立大学全般を通じた視野で課題に取り組むことが望ましいと考える。

(オ) 入学者選抜方法の検討には国際的な視点も必要である。欧米諸国では、我が国の共通1次試験と全く同様な形ではないが、高等教育と中等教育との接続について、それぞれ何らかの全国的に共通の制度を設け、定着させている。イギリスのGCE、アメリカのSAT、ACT、フランスのバカロレア、西ドイツのアビトゥアなどが長い歴史を持っており、その改善も絶えず企図されている。韓国、中国、タイ、ブラジル等でも、中等教育、高等教育の普及に伴って、個別大学の選抜に、共通試験のような制度が相当に加味されつつある。

それぞれの国の中等教育、高等教育の発展の方向には違いはあるが、それが量的に拡大するに伴って多様化しつつあるのは共通の傾向である。このような場合にあって、大学に進学す

る者に対する中等教育にはやはり一定水準の到達度が要求され、それをある程度標準化することは可能と考えられる。歴史の新しいインターナショナル・バカロレア(IB)が、各国で高等教育と中等教育との接続の目安として注目されているのはこのためと思われる。

イ．現行共通1次試験の検討

(ア) 現行の共通1次試験については、一部にこれを廃止すべきであるという意見がある。しかし多年の検討と実施の経験から、前述のように大学と高等学校の双方から評価されている面もあり、また、廃止した場合、単に共通1次試験導入以前の状態に戻るのみでは入学者選抜制度の改善にはつながらない。当部会で意見を聴取した、学識経験者、教育関係団体等もこのような考えで意見はほぼ一致していた。

(イ) 逆に共通1次試験をより制度化して、それを大学入学資格試験として位置付けるとする考え方もある。しかし、我が国では高等学校卒業者に大学入学資格を認めており、この枠を更に拡大することこそ検討に値しようが、現行の資格を試験によりせよめることは、その理由に乏しい。また、本来の意味の大学入学資格試験は、バカロレアやアビトゥアのようにその合格者全員を原則として大学に入学させる制度であるが、この制度は我が国のようには後期中等教育(高等学校教育)が普及していない国で維持されたものであり、それもまた近年では大学の定員との関係で入学制限、入学待機などの問題を抱えている。

(ウ) 現行共通1次試験の枠内での改善には、良問の再利用、マーク・シート方式の改善、採点区分の簡素化、資格試験的な取り扱い、自己採点方式の廃止と受験生への得点の通知、総得点主義に限らない利用方法のより大幅な弾力化等、なお技術的に研究すべきところが少なくない。これらの検討の結果は、今日までの経験とともに、今後の改革に当たって生かされることが望まれる。

ウ．新しい共通テストの提案

大学入学者選抜制度改革のための一つの方策として、当部会は新しい形での共通テストの検討を提案する。

(ア) 現在国公立大学が実施している共通1次試験を改め、国公私を通じて各大学が自由に利用できる「共通テスト」(仮称)を創設する。この場合、各大学は、自主的な判断により、これを利用するか否か、利用するとしてもどのような利用方法をとるかを自由に決定する。もとより、国立大学協会あるいは大学の様々なグループがグループ内で協議して共通に利用することも妨げない。また、短期大学の利用も考えられる。

(イ) この共通テストの利用により、良質の試験問題を確保し、それにより高等学校教育の内容を尊重し、また高等学校レベルにおける生徒の着実な学習を生かすとともに、各大学での個性的で多様な選抜の実現に資することが期待される。共通テストの種類・内容は複数であっても良く、またその在り方については、我が国における能研テスト、共通1次試験等の経験、さらには高等教育と中等教育の接続についての諸外国の状況をも参考にすべきであろう。

(ウ) 共通テストを実施する場合には、国公立の各大学が対等の立場において利用でき、また高等学校関係者の参画が可能となるよう、大学入試センターの設置形態や機能について検討することが考えられる。その際、大学入試センター改革への検討課題として、

- a. 共通テストの実施体制, 実施時期及び回数, 試験手数料と各大学の受験料の取り扱い,
 - b. 大学進学希望者に適切な進路指導を行うための諸活動, 大学と高等学校の間の情報交換のための仲介機能の付与,
 - c. 共通テストを中心に広く大学入学者選抜に関する研究機能の拡充,
 - d. 大学入試センターに要する経費負担の在り方,
- 等が挙げられる。

エ. 大学入学者選抜制度改革のための諸条件の整備

大学入学者選抜制度改革のための基本は, 各大学がいかに個性的で多様な, しかもていねいな入学者選抜を実現させていくかにあり, また大学進学希望者に適切な進路指導を行うことにある。このためには, 次のような諸条件の整備を図る必要がある。

- (ア) 現在, 各大学の入学者選抜の体制は概して脆弱であり, しかも短期間に大量の受験生を対象としなければならないものとなっている。また高等学校や受験生についての情報の収集や交換も一般には十分であるとは言えない。選抜後の追跡調査や選抜方法の研究体制も未だ不十分である。このような状況の改善のためには大学入試センターの改革のみならず, 各大学でのアドミッション・オフィス(入試担当部門)の設置または強化を図る必要がある。
- (イ) 進路指導については大学入試センターの積極的な仲介機能に期待するほか, 各大学と高等学校の間での交流を深める様々な試みが発展することを期待する。また各々の地域での進路指導体制の整備も望まれる。
- (ウ) 入学者選抜制度改革は我が国の社会にとって重要な公共的問題であるので, 政府及び地方公共団体は, 上記のような条件整備を図るために必要な措置を講ずることが望ましい。

オ. 国立大学の受験機会の複数化

共通1次試験の導入に伴い, 1期校・2期校制が廃止され, 国立大学の受験機会が事実上1回に限定されることとなった。この受験機会の減少を補うため, 自己採点方式による志望校の変更, 2次募集の実施などの措置が採られてきたが十分とは言えない。このため受験生は志望や適性にかかわらず合格可能性の高い大学を選択しがちであり, 受験生や一部国立大学からは受験機会の複数化が強く求められている。そのための具体的方策としては,

- a. 2次募集の拡大,
 - b. 入学者選抜期日を大学グループ別に複数分散する,
 - c. 一定期間内に各大学・学部が任意の試験期日を選ぶ,
- 等が考えられる。国立大学がその実現, とりわけbの実現に積極的に取り組むことを期待する。

カ. 高等学校職業科卒業生への配慮

大学入学者選抜に当たっての学力検査は高等学校職業科卒業生には不利であり, 代替科目による受験や一部推薦入学制がとられているが十分ではない。高等学校教育や高等教育の多様化を進める観点からも, 試験方法の改善, 推薦入学の拡大等職業科卒業生に大学進学の道を積極的に開くとともに, 職業科出身者に即応した大学のカリキュラム開発についても検討を加えるべきである。

キ. 帰国子女・社会人等のための特別選抜

- (ア) 帰国子女の大学入学については各大学で特別の選抜方法等の措置が進められているが, 国際化の推進の見地からも, より一層の促進が図られる必要がある。
- (イ) 社会人のための特別選抜も徐々に普及してきているが, 生涯教育の立場, リカレント教育の要請から, 更に組織的な対応を進めなくてはならない。そのためにはまた, 社会における就労条件, 職場での配慮など, 企業等の側での条件整備を併せて進めていくことが重要であると考えられる。
- (ウ) 身体に障害のある者については, 障害の種類, 程度と本人の能力・適性に応じ, 一般学生と同様に大学進学の道が開かれる必要があり, 今後なお一層の改善への努力が払われるべきである。

ク. 改革の進め方

以上は, 大学入学者選抜制度改革について, 当部会において審議の結果得られた見解であるが, 特に, 「共通テスト」の実現や大学入試センターの改革を図るためには, 国公私立大学及び高等学校関係者等が対等の立場で参加する専門的・具体的検討を行うための協議の場を設け, 速やかに所要の措置を講ずることが期待される。また, 大学入学者選抜制度改革は, 大学や高等学校のみでなく, 社会が理解と良き協力を惜しまないことが肝要である。

4 接続に関するその他の諸問題

(1) 入学時期(9月入学)の検討

大学入学者選抜制度の検討に関連して, 大学入学時期についても検討を加えるべきであるとの指摘があった。この問題については, 大学以下の全学校体系を9月入学に改めるか, あるいは大学のみを9月入学とするかによって考え方に差異を生ずるが, 当部会の審議事項から, 仮に大学のみを9月入学に切り替えるとなると, 次のような利点及び問題点があると考えられる。

(ア) 利点として挙げられるのは次の点である。

- a. 現在の入学試験は2～3月の気候条件の恵まれない時期に極めて短期間で実施されており, それがていねいな選抜を妨げる一因となっている。大学入学を9月とすれば高等学校第3学年の授業を3月末まで完全に行うことができ, その後4～5月を十分な選抜のための期間に充てることができる。
- b. 大学入学者を6月に決定するとすれば, 7～8月の有効な利用については種々の可能性があり得る。
- c. 外国の多くは9月または10月入学制であり, 国際交流上有益である。帰国子女の受け入れも円滑となる。
- d. 大学・学部等の新設・拡充に際し, 予算・法令上の措置の完了から学年開始までの間に時間的余裕を生ずるため, 学生募集, 入学者選抜などを順調に行い得る。
- e. 学期途中に長期休暇が入らないので, 教育・研究上効果の上がることが期待される。

(イ) 他方, 問題点として挙げられるのは次の点である。

- a. 小学校入学から大学卒業までの修業年限が延長されることになる。
- b. 高等学校及び大学の卒業生の就職・採用上種々の問題を生じる。

- c. 9月入学への移行に伴う、授業料収入の減など財政上の問題がある。
- d. 学年が会計年度と合致しなくなることに伴い不便を来す側面もある。
- e. 9月または10月入学制をとっていない国々もあり、また留学生の受け入れには、入学時期にずれのあることが、むしろ準備の機会と余裕を与える。
- f. 高等学校卒業から大学入学までの期間、社会的に帰属不明の大量の青年層が生じる。
- g. 高等学校卒業後の入試準備学習を受験産業に依存する度合いが強まり、受験競争が一層過熱化するおそれがある。

以上のように、なお検討を要する点が多く、また社会的影響も大きいことから、今後さらに審議を深めた上で結論に達したい。

(2) その他の問題

その他、高等専門学校分野の拡大、大学と専修学校の連携強化、大学入学資格検定制度の年令制限の問題、修業年限3年以上の高等専修学校の卒業者や旧制中等学校等の卒業者に対する大学入学資格付与の問題等についても審議を行ったが、これらの問題については、高等教育の門は可能な限り多様で幅広くすべきであるという基本的認識のもとに、関係する他部会との協議も含め、更に検討を重ねていくこととした。

大学入試センターのあらまし

1 目 的

大学入試センターは、「国立大学の入学者の選抜に関し、共通第1次学力試験の問題の作成及び採点その他一括して処理することが適当な業務を行うとともに、大学の入学者の選抜方法の改善に関する調査研究を行う」ことを目的とし、昭和52年5月、国立学校設置法に基づき、全国立大学の共同利用の性格をもつ機関として設置されました。大学入試センターは、これらの業務のほか、公立大学や私立大学の要請に応じて、その大学の入学者の選抜に関する業務の実施にも協力することができるものとされています。

2 大学入試センターと各大学の業務分担

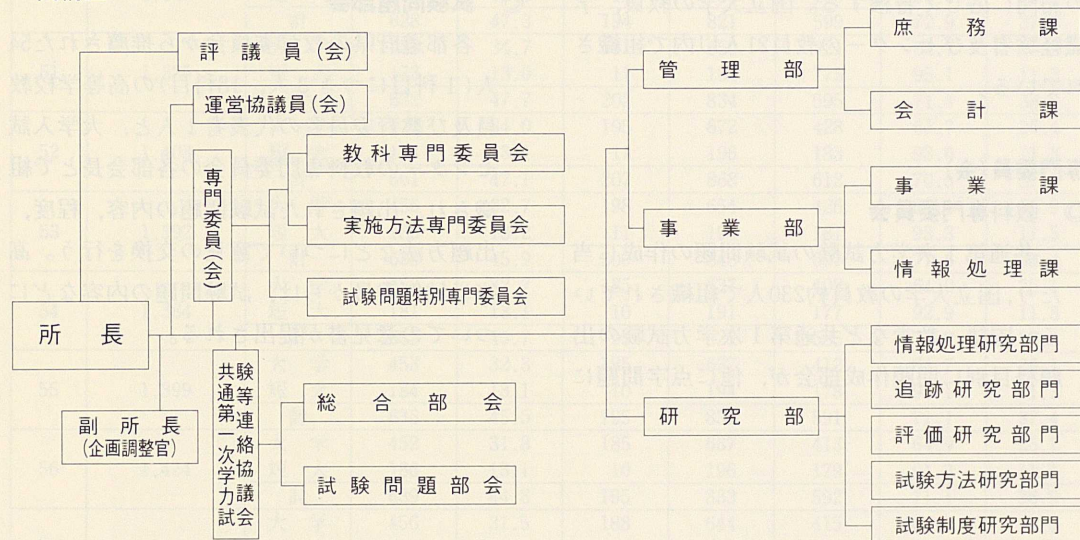
◎大学入試センター

共通第1次学力試験の問題の作成・印刷、受験案内（出願に必要な書類）等の作成、出願の受付、受験票の発行、試験実施に関する基準の作成、答案の採点・集計、成績の各大学あての提供、その他これらに関連する業務を行います。

◎各国立大学

受験案内等の配付、試験場の設定、試験の実施、答案の整理・発送、その他これらに関連する業務を行います。（各公立大学も国立大学に協力して、これらの業務を行います。）

●機構図



●定 員

所 長	副所長 (企画調整官)	管 理 部 事務 業務 官等	研 究 部			合 計
			教 授	助教授	助 手	
1	1	70	5	5	4	86

3 組織・運営

共通第1次学力試験は、国立大学と大学入試センターが協力して実施するものであり、このため、大学入試センターは、各大学の意図が十分に反映され、緊密な連携を保つことができるような編成となっています。また、高等学校側の意見をこの試験の実施に反映させるための組織も設けられています。

各組織の概要は、次のとおりです。

評議員(会)

大学入試センターの事業計画その他の管理運営に関する重要な事項について審議し、所長に助言する。国立大学の学長及び学識経験者15人以内で組織されている。

運営協議員(会)

共通第1次学力試験の実施計画その他の大学入試センターの運営に関する事項について所長の諮問に応じて審議する。国立大学の教員、学識経験者及びセンターの教員21人以内で組織されている。

専門委員(会)

◎ 教科専門委員会

共通第1次学力試験の試験問題の作成に当たり、国立大学の教員約230人で組織されている。国語、数学など共通第1次学力試験の出題科目別に問題作成部会が、他に点字問題に

関して特別問題作成部会が置かれている。

◎ 実施方法専門委員会

共通第1次学力試験の実施方法の策定に当たる。国立大学の教員約20人で組織される。

◎ 試験問題特別専門委員会

教科専門委員会が作成した試験問題の内容・構成などについて点検・照合を行う。試験問題の作成経験者を中心に、国立大学の教員約50人で組織されている。

共通第1次学力試験等連絡協議会

共通第1次学力試験に関し、高等学校側などと連絡協議を行う。総合部会と試験問題部会とで構成されている。

◎ 総合部会

高等学校や教育委員会の代表者及び大学入試センターの代表者約20人で組織され、共通第1次学力試験に関する全般的な事項について連絡協議する。

◎ 試験問題部会

各都道府県のエデュケーション委員会から推薦された54人(1科目につき3人、18科目)の高等学校教員及び教育委員会の代表者1人と、大学入試センターの教科専門委員会の各部会長とで組織され、出題された試験問題の内容、程度、出題方法などについて意見の交換を行う。高等学校側委員からは、試験問題の内容などについての意見書が提出される。

国公立大学入学者選抜実施状況等

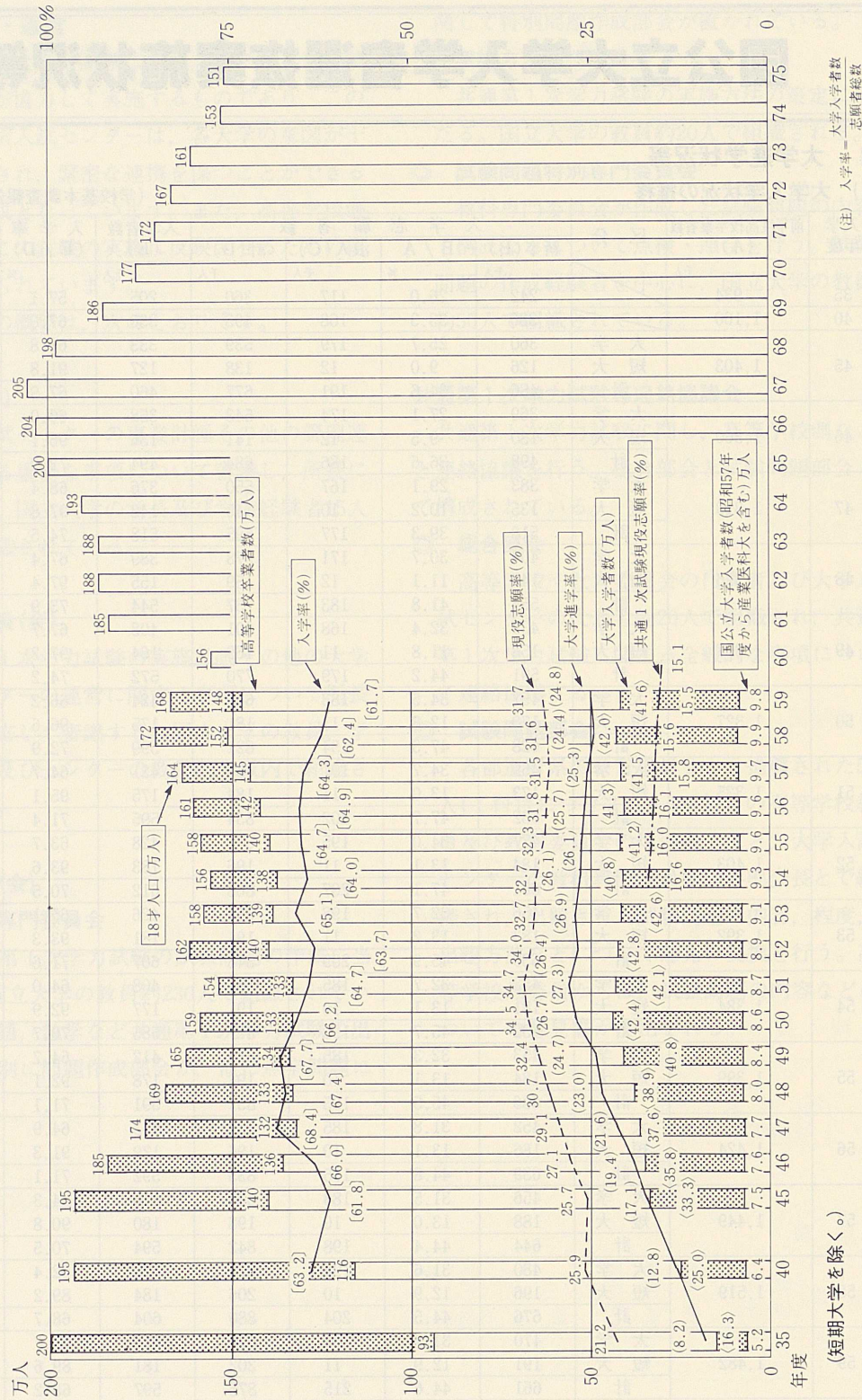
1 大学進学状況等

(1) 大学入学状況の推移

(学校基本調査報告書による)

入学年度	前年度高校卒業者数 (A)	区 分	入 学 志 願 者 数				入学者数 (E)	入 学 率 (E / D)	同一年令層 比
			新卒(B)	B / A	浪人(C)	計(D)			
			千人	%	千人	千人	千人	%	%
35	934		242	26.0	117	360	205	57.1	10.3
40	1,160		386	33.3	108	493	330	67.0	17.0
45	1,403	大 学	360	25.7	179	539	333	61.8	17.1
		短 大	126	9.0	12	138	127	91.8	6.5
46	1,360	計	486	34.6	191	677	460	67.9	23.6
		大 学	369	27.1	174	543	358	66.0	19.4
47	1,319	短 大	130	9.5	12	141	136	96.1	7.4
		計	498	36.6	186	684	494	72.2	26.8
48	1,326	大 学	383	29.1	167	550	376	68.4	21.6
		短 大	135	10.2	10	145	142	97.8	8.2
49	1,337	計	518	39.3	177	695	518	74.5	29.8
		大 学	407	30.7	171	578	389	67.4	23.0
50	1,327	短 大	147	11.1	12	159	155	97.4	9.2
		計	554	41.8	183	737	544	73.9	32.2
51	1,325	大 学	433	32.4	168	601	408	67.7	24.7
		短 大	158	11.8	11	169	164	97.2	10.0
52	1,403	計	591	44.2	179	770	572	74.2	34.7
		大 学	457	34.5	183	640	424	66.2	26.7
53	1,392	短 大	170	12.8	11	181	175	96.6	11.1
		計	628	47.3	194	821	599	72.9	37.8
54	1,384	大 学	459	34.7	191	650	421	64.7	27.3
		短 大	173	13.0	11	184	175	95.1	11.3
55	1,399	計	632	47.7	202	834	595	71.4	38.6
		大 学	477	34.0	195	672	428	63.7	26.4
56	1,424	短 大	184	13.1	11	196	183	93.6	11.3
		計	661	47.1	207	868	612	70.5	37.7
57	1,449	大 学	456	31.5	188	644	415	64.3	25.3
		短 大	188	13.0	10	198	180	90.8	11.0
58	1,519	計	644	44.4	198	842	594	70.5	36.3
		大 学	480	31.6	194	674	420	62.4	24.4
59	1,482	短 大	196	12.9	10	206	184	89.2	10.7
		計	676	44.5	204	880	604	68.7	35.1
		大 学	470	31.7	204	674	416	61.7	24.8
		短 大	191	12.9	11	202	181	89.6	10.8
		計	661	44.6	215	876	597	68.2	35.6

(2) 大学入学状況の推移



(3) 大学・短期大学入学志願者・入学者の推移

① 大学

(学校基本調査報告書による)

入学 年度	国 立			公 立			私 立			計		
	入学志願者 人	入学者 人	倍率 倍	入学志願者 人	入学者 人	倍率 倍	入学志願者 人	入学者 人	倍率 倍	入学志願者 人	入学者 人	倍率 倍
35	250,118	44,847	5.6	59,244	6,925	8.6	485,597	111,150	4.4	794,959	162,922	4.9
40	307,853	54,681	5.6	89,436	9,130	9.8	806,048	186,106	4.3	1,203,337	249,917	4.8
45	372,190	64,519	5.8	104,625	10,215	10.2	1,466,392	258,303	5.7	1,943,207	333,037	5.8
46	362,767	65,484	5.5	83,961	10,321	8.1	1,505,956	282,016	5.3	1,952,684	357,821	5.5
47	372,375	66,877	5.6	84,257	10,317	8.2	1,518,958	298,953	5.1	1,975,590	376,147	5.3
48	384,988	69,582	5.5	85,883	10,401	8.3	1,600,414	309,577	5.2	2,071,285	389,560	5.3
49	412,514	73,190	5.6	90,473	10,434	8.7	1,817,126	323,904	5.6	2,320,113	407,528	5.7
50	452,687	75,479	6.0	104,767	10,673	9.8	2,199,245	337,790	6.5	2,756,699	423,942	6.5
51	482,861	76,537	6.3	92,928	10,479	8.9	2,218,729	333,600	6.7	2,794,518	420,616	6.6
52	504,808	78,323	6.4	94,424	10,718	8.8	2,358,662	339,371	7.0	2,957,894	428,412	6.9
53	509,497	80,237	6.3	103,812	10,797	9.6	2,513,819	334,684	7.5	3,127,128	425,718	7.3
54	270,741	82,533	3.3	69,899	10,578	6.6	2,456,046	314,524	7.8	2,796,686	407,635	6.9
55	255,019	84,731	3.0	64,832	10,848	6.0	2,338,555	316,858	7.4	2,658,406	412,437	6.4
56	242,682	85,422	2.8	66,539	10,805	6.2	2,299,709	317,009	7.3	2,608,930	413,236	6.3
57	237,916	86,348	2.8	64,704	11,151	5.8	2,287,545	317,037	7.2	2,590,165	414,536	6.2
58	252,358	87,790	2.9	66,065	11,203	5.9	2,378,754	321,465	7.4	2,697,177	420,458	6.4
59	245,119	87,569	2.8	63,557	11,114	5.7	2,486,016	317,319	7.8	2,794,692	416,002	6.7

(注) 入学志願者は延べ数

② 短期大学

(学校基本調査報告書による)

入学 年度	国 立			公 立			私 立			計		
	入学志願者 人	入学者 人	倍率 倍	入学志願者 人	入学者 人	倍率 倍	入学志願者 人	入学者 人	倍率 倍	入学志願者 人	入学者 人	倍率 倍
35	5,082	2,499	2.0	13,397	5,293	2.5	68,681	34,526	2.0	87,160	42,318	2.1
40	6,507	2,502	2.6	26,802	6,495	4.1	137,826	71,566	1.9	171,135	80,563	2.1
45	7,588	3,024	2.5	30,307	7,409	4.1	214,804	116,226	1.8	252,699	126,659	2.0
46	7,076	3,197	2.2	30,244	7,549	4.0	227,080	125,646	1.8	264,400	136,392	1.9
47	7,092	3,148	2.3	30,723	7,581	4.1	232,402	130,902	1.8	270,217	141,631	1.9
48	6,595	3,395	1.9	31,708	7,834	4.0	261,262	143,542	1.8	299,565	154,771	1.9
49	7,446	3,817	2.0	30,943	8,006	3.9	290,971	152,254	1.9	329,360	164,077	2.0
50	10,492	4,371	2.4	34,985	8,189	4.3	333,689	162,370	2.1	379,166	174,930	2.2
51	9,916	4,076	2.4	37,251	8,259	4.5	344,502	162,348	2.1	391,669	174,683	2.2
52	12,243	4,310	2.8	38,630	8,369	4.6	390,561	170,545	2.3	441,434	183,224	2.4
53	14,012	4,296	3.3	39,862	8,525	4.7	409,339	168,360	2.4	463,213	181,181	2.6
54	12,851	4,408	2.9	36,237	8,405	4.3	414,009	164,166	2.5	463,097	176,979	2.6
55	12,615	4,743	2.7	36,673	8,615	4.3	424,835	164,857	2.6	474,123	178,215	2.7
56	13,846	5,072	2.7	37,893	8,881	4.3	454,962	165,118	2.8	506,701	179,071	2.8
57	15,389	5,412	2.8	37,396	8,975	4.2	456,953	165,214	2.8	509,738	179,601	2.8
58	16,438	5,349	3.1	38,600	9,126	4.2	483,170	169,396	2.9	538,208	183,871	2.9
59	18,244	5,452	3.3	40,078	9,383	4.3	472,989	166,388	2.8	531,311	181,223	2.9

(注) 入学志願者は延べ数

2 国公立大学志願者・受験者・合格者 ―― 総括表 ――

区分	昭和54年度		昭和55年度		昭和56年度		昭和57年度		昭和58年度		昭和59年度		昭和60年度	
	国立	計	国立	計	国立	計	国立	計	国立	計	国立	計	国立	計
入学 定員	82,926	9,898	84,501	94,636	85,471	95,656	85,841	96,136	86,351	96,746	86,571	96,966	86,838	97,233
志願者	294,962	46,312	308,011	41,555	349,566	315,847	310,450	352,743	317,387	362,609	314,990	360,846	295,915	336,357
	倍 3.6	4.7	倍 3.6	4.1	倍 3.7	4.1	倍 3.6	4.4	倍 3.7	4.2	倍 3.6	4.4	倍 3.4	3.9
共通一次試験	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
受験者	—	327,427	—	333,212	—	340,757	—	334,257	—	343,152	—	341,425	—	321,126
第二次試験	270,394	69,662	254,424	64,781	319,205	243,537	237,572	303,086	251,788	318,563	241,493	308,235	258,642	322,292
	倍 3.3	7.1	倍 3.0	6.4	倍 3.4	2.8	倍 6.6	3.2	倍 2.9	7.3	倍 2.8	6.1	倍 3.0	4.7
合格者	88,301	13,345	91,359	14,608	105,967	92,994	93,592	109,511	94,069	110,027	94,195	110,716	94,090	111,061
入学者	82,448	10,673	84,561	10,913	95,474	85,463	86,148	97,376	87,605	98,882	87,343	98,488	87,860	99,261

(注) 1 年度は入学年度、(以下、各表において同じ。)

2 国立大学の入学定員には、昭和60年度は東京外国語大学外国語学部日本語学科のうち外国人留学生を対象とする30名を含まない(昭和54～59年度においては、同大学外国語学部特設日本語学科30名を含まない)。

3 第2次試験の志願者数、受験者数には、第2次募集及び推薦入学による者を含み、延べ数である。

4 昭和57年度以降は、私立の産業医科大学を含む。

5 共通1次試験の志願者数で、志望状況の未記入者分、昭和54年度1人、昭和59年度592人、昭和60年度644人をそれぞれの年度の計に含む。

共通第1次学力試験

3 共通第1次学力試験

(1) 志願者・受験者・欠席者

区 分	昭和54年度	昭和55年度	昭和56年度	昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度
志 願 者	341,875	349,566	357,633	352,743	362,609	360,846	336,357
受 験 者	327,427	333,212	340,757	334,257	343,152	341,425	321,126
欠 席 者	14,448(4.23%)	16,354(4.68%)	16,876(4.72%)	18,486(5.24%)	19,457(5.37%)	19,421(5.38%)	15,231(4.53%)

(2) 志願者の内訳

① 出願資格別

区 分	昭和54年度	昭和55年度	昭和56年度	昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度
高等学校卒業見込み者	228,987 ^人 (67.0)%	224,314 ^人 (64.2)%	229,825 ^人 (64.2)%	228,778 ^人 (64.8)%	236,273 ^人 (65.1)%	229,100 ^人 (63.5)%	207,035 ^人 (61.6)%
高等学校卒業	111,526(32.6)	123,896(35.4)	126,473(35.4)	122,656(34.8)	125,000(34.5)	130,392(36.1)	127,881(38.0)
大学入学資格検定合格者	774	820	848	907	971	1,042	1,147
高等専門学校第3学年修了者	510	453	397	307	240	204	176
外国の学校(12年の課程修了者)	63	55	60	68	83	74	73
在外教育施設修了者	2	5	12	11	20	18	21
国際バカロレア資格取得者	—	8	5	8	8	2	2
文部大臣の指定した者	13	15	13	8	14	14	22
合 計	341,875(100.0)	349,566(100.0)	357,633(100.0)	352,743(100.0)	362,609(100.0)	360,846(100.0)	336,357(100.0)

② 男女別

区 分	昭和54年度	昭和55年度	昭和56年度	昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度
男	259,925 ^人 (76.0)%	266,896 ^人 (76.4)%	271,213 ^人 (75.8)%	266,471 ^人 (75.5)%	272,132 ^人 (75.0)%	269,970 ^人 (74.8)%	252,600 ^人 (75.1)%
女	81,950(24.0)	82,670(23.6)	86,420(24.2)	86,272(24.5)	90,477(25.0)	90,876(25.2)	83,757(24.9)
合 計	341,875(100.0)	349,566(100.0)	357,633(100.0)	352,743(100.0)	362,609(100.0)	360,846(100.0)	336,357(100.0)

③ 高校出身者の学科別

区 分	昭和54年度	昭和55年度	昭和56年度	昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度
普通科	328,001 ^人 (96.3)%	336,281 ^人 (96.6)%	344,516 ^人 (96.7)%	340,112 ^人 (96.8)%	350,349 ^人 (97.0)%	348,964 ^人 (97.1)%	325,071 ^人 (97.1)%
農業科	557(0.2)	573(0.1)	561(0.1)	518(0.1)	511(0.1)	446(0.1)	343(0.1)
工業科	3,455(1.0)	3,026(0.9)	2,664(0.7)	2,243(0.6)	2,038(0.6)	1,640(0.4)	1,373(0.4)
商業科	1,138(0.3)	1,018(0.3)	923(0.3)	890(0.3)	797(0.2)	670(0.2)	581(0.2)
理数科	7,362(2.2)	7,312(2.1)	6,310(1.8)	6,276(1.8)	6,077(1.7)	6,359(1.8)	6,179(1.8)
その他	—	—	1,324(0.4)	1,395(0.4)	1,501(0.4)	1,413(0.4)	1,369(0.4)
合 計	340,513(100.0)	348,210(100.0)	356,298(100.0)	351,434(100.0)	361,273(100.0)	359,492(100.0)	334,916(100.0)

④ 受験申請科目〔工業数理、簿記会計Ⅰ・Ⅱ〕〔数学一般、基礎理科〕の受験申請者

区 分	昭和54年度	昭和55年度	昭和56年度	昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度
新教育課程	工業数理	—	—	—	—	—	92人
	簿記会計Ⅰ・Ⅱ	—	—	—	—	—	268
旧教育課程	数学一般	119人	37人	25人	27人	21人	12人
	基礎理科	195	127	132	110	108	56

(参考) 英語A 4,623人(54年度), 3,998人(55年度), 3,700人(56年度), 3,225人(57年度), 3,077人(58年度), 2,567人(59年度)

⑤ 出身高等学校別（都道府県単位）

区 分	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度	区 分	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度
	志 願 者	志 願 者	志 願 者		志 願 者	志 願 者	志 願 者
全 国	362,609 ^人	360,846 ^人	336,357 ^人	滋 賀 県	2,820 ^人	2,908 ^人	2,737 ^人
				京 都 府	8,073	7,992	7,109
北 海 道	16,173	16,104	15,454	大 阪 府	30,654	29,939	27,362
青 森 県	3,609	3,574	3,371	兵 庫 県	16,585	16,122	15,094
岩 手 県	3,670	3,806	3,648	奈 良 県	3,499	3,497	3,315
宮 城 県	5,438	5,365	5,066	和 歌 山 県	3,143	3,062	2,566
秋 田 県	3,378	3,261	3,011	鳥 取 県	2,402	2,344	2,208
山 形 県	3,525	3,504	3,155	島 根 県	2,532	2,451	2,342
福 島 県	5,255	4,918	4,478	岡 山 県	8,187	8,334	7,778
茨 城 県	6,023	6,301	5,995	広 島 県	9,667	9,464	8,798
栃 木 県	4,019	4,075	4,109	山 口 県	5,572	5,416	5,151
群 馬 県	5,742	5,712	5,363	徳 島 県	3,236	3,192	2,856
埼 玉 県	10,580	10,486	10,153	香 川 県	3,682	3,585	3,212
千 葉 県	11,364	11,594	10,789	愛 媛 県	5,595	5,512	5,015
東 京 都	36,768	36,232	33,493	高 知 県	2,224	2,157	2,001
神 奈 川 県	16,737	17,167	15,916	福 岡 県	16,112	16,110	15,434
新 潟 県	6,181	6,041	5,524	佐 賀 県	2,697	2,657	2,539
富 山 県	4,757	4,744	4,532	長 崎 県	6,242	6,233	5,980
石 川 県	4,020	3,980	3,567	熊 本 県	6,198	6,127	5,638
福 井 県	2,824	2,660	2,588	大 分 県	4,478	4,272	4,126
山 梨 県	2,348	2,496	2,260	宮 崎 県	4,372	4,516	4,248
長 野 県	6,718	6,695	5,836	鹿 児 島 県	6,492	6,616	6,451
岐 阜 県	6,386	6,348	5,842	沖 縄 県	5,354	5,104	4,951
静 岡 県	8,651	9,090	8,194				
愛 知 県	22,653	23,165	21,477	大学入学資格 検定合格者等	1,336	1,354	1,441
三 重 県	4,638	4,564	4,184				

(3) 受験者の内訳

区 分	昭和54年度	昭和55年度	昭和56年度	昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度
志願者	341,875 ^人	349,566 ^人	357,633 ^人	352,743 ^人	362,609 ^人	360,846 ^人	336,357 ^人
受験者(所定の全教科目を受験した者)	327,427 ^人	333,212 ^人	340,757 ^人	334,257 ^人	343,152 ^人	341,425 ^人	321,126 ^人
本試験(点字受験者を含む。)	327,140	333,026	340,614	334,118	343,049	341,288	320,987
追試験	287	186	143	113	103	137	139
再試験	—	—	—	26	—	—	—
欠席者数	14,448	16,354	16,876	18,486	19,457	19,421	15,231
全教科欠席者数(追試験欠席者を含む。)	13,637	15,359	15,772	17,494	18,116	18,145	13,869
一部教科欠席者数(追・再試験欠席者を含む。)	811	995	1,104	992	1,341	1,276	1,362
欠席率	4.23%	4.68%	4.72%	5.24%	5.37%	5.38%	4.53%

(参考) 追・再試験受験許可者

区 分	昭和54年度	昭和55年度	昭和56年度	昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度
追 試 験	受験許可者数	302 ^人	203 ^人	162 ^人	122 ^人	114 ^人	159 ^人
	疾病・負傷等によるもの	301	202	158	117	112	158
	事故等	1	1	4	5	2	1
	欠席者数	15	17	19	9	11	22
再 試 験	受験許可者数	—	—	—	27	—	—
	欠席者数	—	—	—	1	—	—

(4) 身体に障害のある者で特別措置が講じられた人数

区 分	昭和54年度	昭和55年度	昭和56年度	昭和57年度	昭和58年度	昭和59年度	昭和60年度
対 象 者 合 計	143 ^人	135 ^人	166 ^人	186 ^人	188 ^人	192 ^人	226(160) ^人
障 害 の 種 類	視 覚 障 害	53	45	43	36	54	32(28)
	聴 覚 障 害	49	44	55	68	69	57(55)
	肢 体 不 自 由 等	41	46	68	82	65	137(77)

(内 訳)

受 験 の 際 に 取 っ た 措 置 (延数)	視 覚 障 害	点字問題を点字で解答	9 ^人	10 ^人	12 ^人	8 ^人	10 ^人	8 ^人	11 ^人
		拡大文字問題の準備	—	—	—	—	—	23	14(11)
		一般問題を文字で解答	14	10	10	13	12	15	11(8)
		照明器具の準備	1	8	3	6	14	7	11(10)
		窓側の明るい席を指定	27	22	14	16	27	21	12(11)
	聴 覚 障 害	拡大鏡等の持参使用	25	17	22	19	30	25	16(13)
		手話通訳者の付与	3	2	4	1	3	4	3
		座席を前列に指定	28	26	33	40	43	52	38
		補聴器の持参使用	39	33	45	58	61	59	50(48)
	肢 体 不 自 由 ・ 病 弱 等	チェック解答	—	—	—	—	—	—	33(28)
		一般問題を文字で解答	9	15	24	20	15	14	—
		別室を設定	10	14	16	27	14	27	62(35)
		特製机の使用	3	1	5	9	7	11	15(12)
		車椅子等の持参使用	24	14	20	32	21	29	28(26)
		松葉杖の持参使用	—	—	—	—	—	—	29(15)
		洋式トイレに近接する試験室に指定	—	—	—	—	—	—	28(25)
		タイプライターの持参使用	—	—	—	—	—	1	—
		介助者の付与	—	—	13	16	11	2	6
		試験室を一階に設定	36	41	34	51	39	54	43(37)
		そ の 他	—	—	42	67	52	61	88(54)

(注) ()内は、出願受付時の人数を示す。

(5) 共通第1次学力試験 受験者・平均点の推移 (本試験)

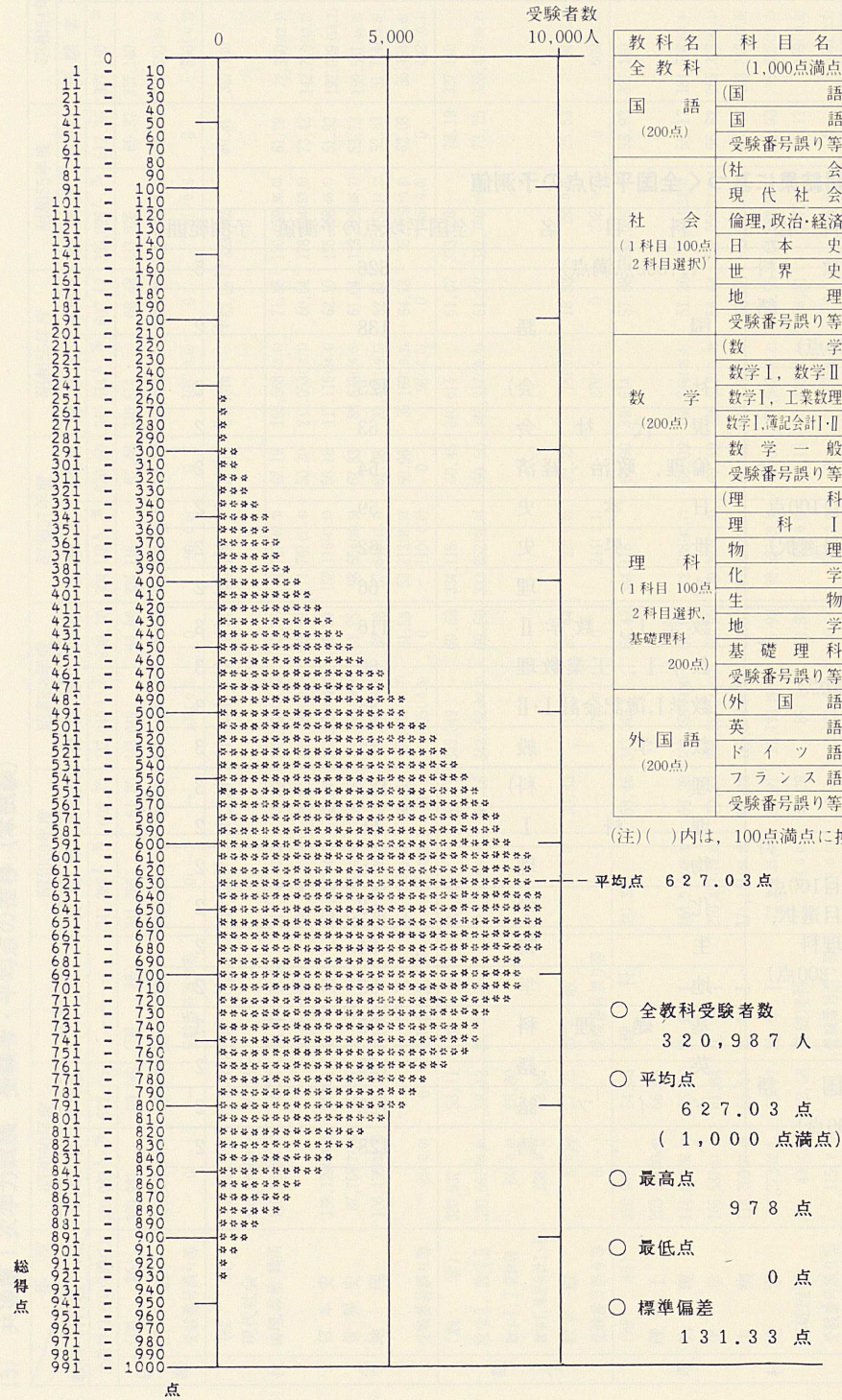
年 度		昭和60年度		旧科目名	昭和59年度		昭和58年度		昭和57年度		昭和56年度		昭和55年度		昭和54年度	
教科・科目名	全教科(1,000点満点)	受験者	平均点		受験者	平均点	受験者	平均点	受験者	平均点	受験者	平均点	受験者	平均点	受験者	平均点
国語	(国語)	320,987	69.06	341,288	61.80	343,049	64.96	334,118	67.46	340,614	66.43	333,026	69.37	327,140	65.99	
	国語 受験番号誤り等	320,987(100.0)	69.06	341,288(100.0)	61.80	342,942(99.9)	64.98	334,028(99.9)	67.48	340,506(99.9)	66.45	332,935(99.9)	69.39	326,550(99.8)	66.11	
社会	(社会)	320,987	63.20	341,288	63.23	343,049	59.74	334,118	57.63	340,614	63.98	333,026	60.31	327,140	57.87	
	現代社会 倫理・政治・経済	198,990(62.0)	62.22	217,743(63.8)	67.89	175,969(51.3)	63.26	134,737(40.3)	62.19	165,668(48.6)	71.88	120,039(36.0)	61.29	72,350(22.1)	61.83	
会	日本史	138,129(43.0)	60.61	152,157(44.6)	63.67	153,563(44.8)	59.23	152,116(45.5)	56.18	117,116(34.4)	62.10	155,368(46.7)	51.92	192,039(58.7)	54.01	
	世界史	87,738(27.3)	62.55	105,658(31.0)	59.48	102,679(29.9)	61.75	98,654(29.5)	62.83	88,633(26.0)	61.04	128,729(38.7)	53.73	159,531(48.8)	57.21	
地	地理A	106,436(33.2)	67.78	64,747(19.0)	61.12	62,351(18.2)	62.98	57,646(17.3)	61.08	32,491(9.5)	62.81	47,415(14.2)	52.63	51,714(15.8)	65.62	
	地理B	54,117(15.9)	66.11	53,845(15.7)	61.58	53,212(15.9)	61.58	53,212(15.9)	60.96	35,169(10.3)	64.73	35,925(10.8)	62.08	35,494(10.8)	62.18	
数	受験番号誤り等	84(0.0)	0	92(0.0)	0	105(0.0)	0	110(0.0)	0	98(0.0)	0	146(0.0)	0	442(0.1)	0	
	(数学)	320,987	58.11	341,288	54.15	343,049	69.63	334,118	60.45	340,614	61.67	333,026	73.19	327,140	75.81	
学	数学Ⅰ, 数学Ⅱ	320,657(99.9)	58.13	341,270(99.9)	54.16	342,762(99.9)	69.69	333,852(99.9)	60.50	340,317(99.9)	61.72	332,766(99.9)	73.25	326,477(99.8)	75.96	
	数学Ⅰ, 工業数理	84(0.0)	28.80	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
科	数学一般	8(0.0)	27.25	18(0.0)	30.83	17(0.0)	35.44	22(0.0)	32.27	18(0.0)	18.83	28(0.0)	25.63	54(0.0)	29.82	
	受験番号誤り等	0(—)	—	0(—)	—	270(0.1)	0	244(0.1)	0	279(0.1)	0	232(0.1)	0	609(0.2)	0	
理	(理科)	320,987	64.03	341,288	68.46	343,049	64.42	334,118	66.90	340,614	57.88	333,026	58.93	327,140	56.02	
	理科Ⅰ	203,381(63.4)	66.08	164,913(48.3)	69.39	152,358(44.4)	66.67	142,728(42.7)	66.09	164,844(48.4)	51.20	178,844(53.7)	55.17	184,568(56.4)	59.87	
物	物理	114,824(35.8)	65.56	270,457(79.2)	70.73	255,557(74.5)	68.99	239,397(71.6)	69.49	256,613(75.3)	56.64	259,056(77.8)	56.82	265,323(81.1)	50.58	
	化学	165,587(51.6)	61.84	174,151(51.0)	63.93	185,698(54.1)	60.57	187,294(56.1)	65.45	180,421(53.0)	63.36	163,090(49.0)	65.33	153,742(47.0)	60.96	
生	生物	118,709(37.0)	65.55	72,821(21.3)	68.91	92,193(26.9)	55.96	98,527(29.5)	64.68	78,943(23.2)	63.55	64,582(19.4)	61.93	49,822(15.2)	56.12	
	地学	39,272(12.2)	53.77	87(0.0)	47.28	85(0.0)	38.33	92(0.0)	36.18	115(0.0)	36.81	107(0.0)	31.11	159(0.0)	32.47	
基	基礎理科	43(0.0)	42.08	0	0	122(0.0)	0	106(0.0)	0	177(0.1)	0	266(0.1)	0	507(0.2)	0	
	受験番号誤り等	115(0.0)	0	60(0.0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
外	(外国語)	320,987	59.10	341,288	56.73	343,049	59.28	334,118	57.54	340,614	53.59	333,026	46.90	327,140	62.35	
	英語	320,600(99.9)	59.10	338,278(99.1)	56.88	339,652(99.0)	59.48	330,422(98.9)	57.76	336,362(98.8)	53.82	328,538(98.7)	47.09	321,893(98.4)	62.75	
国	英語A	2,153(0.6)	42.35	2,582(0.8)	40.50	2,734(0.8)	40.00	3,222(0.9)	35.83	3,467(1.0)	33.34	4,031(1.2)	33.34	4,031(1.2)	42.27	
	ドイツ語	245(0.1)	61.94	281(0.1)	56.90	305(0.1)	54.33	346(0.1)	52.44	424(0.1)	51.03	331(0.1)	56.28	303(0.1)	60.97	
語	フランス語	142(0.0)	64.92	208(0.1)	53.96	177(0.0)	64.20	235(0.1)	56.45	234(0.1)	56.23	222(0.1)	51.30	192(0.1)	58.33	
	受験番号誤り等	0(—)	—	368(0.1)	0	333(0.1)	0	381(0.1)	0	372(0.1)	0	468(0.1)	0	721(0.2)	0	

(注) 1 受験者は、全教科の所定の科目を受験した者
2 各教科の平均点は、100点満点に換算した点数

(6) 中間結果に基づく全国平均点の予測値

教科名	科目名	全国平均点の予測値	予測範囲
全教科	(1,000点満点)	626	± 5
国語 (200点)	国語	138	± 2
社会 (1科目100点 2科目選択)	(社会)	125	± 2
	現代社会	63	± 2
	倫理, 政治・経済	64	± 2
	日本史	59	± 2
	世界史	62	± 2
数学 (200点)	地 理	66	± 2
	数学I, 数学II	116	± 3
	数学I, 工業数理	60	± 3
	数学I, 簿記会計I・II	85	± 3
理科 (1科目100点 2科目選択, 基礎理科 200点)	数 学 一 般	55	± 3
	(理科)	127	± 3
	理科I	66	± 2
	物理	65	± 2
	化学	62	± 2
	生物	64	± 2
	地 学	53	± 2
外国語 (200点)	基礎理科	85	± 3
	英 語	120	± 2
	ドイツ語	123	± 2
	フランス語	128	± 2

(7) 昭和60年度共通第1次学力試験本試験の得点分布概略図(全教科)



教科名	科目名	最高点	最低点	標準偏差
全教科	(1,000点満点)	978	0	131.33
国語 (200点)	(国語)	200/100	0/0	23.09/11.54
	国語	200/100	0/0	23.09/11.54
	受験番号誤り等	—	—	—
社会 (1科目100点 2科目選択)	(社会)	200/100	0/0	26.91/13.45
	現代社会	100	0	12.06
	倫理・政治・経済	100	0	13.27
	日本史	100	0	16.71
	世界史	100	0	18.05
	地理	100	0	16.43
	受験番号誤り等	0	0	0
数学 (200点)	(数学)	200/100	0/0	49.65/24.82
	数学Ⅰ、数学Ⅱ	200/100	0/0	49.65/24.82
	数学Ⅰ、工業数理	151/75	5/2	35.72/17.86
	数学Ⅰ、簿記会計Ⅱ	186/93	15/7	31.21/15.60
	数学一般	200/100	20/10	55.62/27.81
	受験番号誤り等	—	—	—
理科 (1科目100点 2科目選択 基礎理科 200点)	(理科)	200/100	0/0	31.92/15.96
	理科Ⅰ	100	0	16.23
	物理	100	0	24.02
	化学	100	0	17.17
	生物	100	0	15.53
	地理	100	0	15.07
	基礎理科	153/76	23/11	33.07/16.53
外国語 (200点)	受験番号誤り等	0	0	0
	(外国語)	200/100	0/0	32.59/16.29
	英語	200/100	0/0	32.56/16.28
	ドイツ語	200/100	18/9	52.44/26.22
	フランス語	200/100	22/11	49.09/24.54

(注) ()内は、100点満点に換算した点数

平均点 627.03点

○ 全教科受験者数
3,209,987人○ 平均点
627.03点
(1,000点満点)○ 最高点
978点○ 最低点
0点○ 標準偏差
131.33点

4 第2次試験

(1) 実施状況の概況

区 分	昭和54年度			昭和55年度			昭和56年度			昭和57年度			昭和58年度			昭和59年度			昭和60年度		
	国立	公立	計	国立	公立	計	国立	公立	計	国立	公立	計	国立	公立	計	国立	公立	計	国立	公立	計
大学・学部総数	87	327	414	91	336	427	92	344	436	93	347	440	94	350	444	94	350	444	94	350	444
推薦入学	46	75	121	46	75	121	46	75	121	46	75	121	46	75	121	46	75	121	46	75	121
うち共通1次試験を免除する	21	29	50	21	29	50	21	29	50	21	29	50	21	29	50	21	29	50	21	29	50
第二次募集	4	5	9	4	5	9	4	5	9	4	5	9	4	5	9	4	5	9	4	5	9
定員留保	11	16	27	11	16	27	11	16	27	11	16	27	11	16	27	11	16	27	11	16	27
欠員による繰合	13	15	28	13	15	28	13	15	28	13	15	28	13	15	28	13	15	28	13	15	28
帰国子女入試	1	5	6	1	5	6	1	5	6	1	5	6	1	5	6	1	5	6	1	5	6
社会人入試	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2段階選抜	12	28	40	12	28	40	12	28	40	12	28	40	12	28	40	12	28	40	12	28	40
学力検査を課さない	44	66	110	44	66	110	44	66	110	44	66	110	44	66	110	44	66	110	44	66	110
実地検査を課す	52	56	108	52	56	108	52	56	108	52	56	108	52	56	108	52	56	108	52	56	108
面接を課す	27	33	60	27	33	60	27	33	60	27	33	60	27	33	60	27	33	60	27	33	60
小論文を課す	48	77	125	48	77	125	48	77	125	48	77	125	48	77	125	48	77	125	48	77	125
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79
学力検査	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79	55	24	79</			

(3) 第2次募集

区 分	昭 和 54 年 度									昭 和 55 年 度								
	国 立			公 立			計			国 立			公 立			計		
	定員留保	欠員補充	計	定員留保	欠員補充	計	定員留保	欠員補充	計	定員留保	欠員補充	計	定員留保	欠員補充	計	定員留保	欠員補充	計
実施大学	大字 学部 4 5	大字 学部 11 16	大字 学部 15 21	—	大字 学部 1 1	大字 学部 1 1	大字 学部 4 5	大字 学部 12 17	大字 学部 16 22	大字 学部 12 13	大字 学部 7 7	大字 学部 18 20	大字 学部 1 1	大字 学部 1 1	大字 学部 2 2	大字 学部 13 14	大字 学部 8 8	大字 学部 20 22
募集人員	約 人 264	約 人 759	約 人 1,023	—	人 26	人 26	約 人 264	約 人 785	約 人 1,049	約 人 738	約 人 114	約 人 852	人 60	—	人 60	約 人 798	約 人 114	約 人 912
志 願 者	人 3,846	人 14,711	人 18,557	—	人 121	人 121	人 3,846	人 14,832	人 18,678	人 7,100	人 1,851	人 8,951	人 153	人 209	人 362	人 7,253	人 2,060	人 9,313
受 験 者	人 3,715	人 13,884	人 17,599	—	人 113	人 113	人 3,715	人 13,997	人 17,712	人 6,664	人 1,767	人 8,431	人 139	人 188	人 327	人 6,803	人 1,955	人 8,758
合 格 者	人 382	人 1,075	人 1,457	—	人 44	人 44	人 382	人 1,119	人 1,501	人 1,100	人 184	人 1,284	人 71	人 7	人 78	人 1,171	人 191	人 1,362

区 分	昭 和 56 年 度									昭 和 57 年 度								
	国 立			公 立			計			国 立			公 立			私立	計	
	定員留保	欠員補充	計	定員留保	欠員補充	計	定員留保	欠員補充	計	定員留保	欠員補充	計	定員留保	欠員補充	計	定員留保	欠員補充	計
実施大学	大字 学部 14 16	大字 学部 3 3	大字 学部 17 19	大字 学部 1 1	—	大字 学部 1 1	大字 学部 15 17	大字 学部 3 3	大字 学部 18 20	大字 学部 17 20	大字 学部 6 6	大字 学部 21 26	—	—	—	大字 学部 18 21	大字 学部 6 6	大字 学部 22 27
募集人員	約 人 762	約 人 40	約 人 802	人 60	—	人 60	約 人 822	約 人 40	約 人 862	約 人 888	約 人 89	約 人 977	—	人 —	人 —	約 人 25	約 人 913	約 人 89
志 願 者	人 5,412	人 688	人 6,100	人 139	—	人 139	人 5,551	人 688	人 6,239	人 6,352	人 1,026	人 7,378	—	人 —	人 —	人 679	人 7,031	人 1,026
受 験 者	人 5,268	人 667	人 5,935	人 129	—	人 129	人 5,397	人 667	人 6,064	人 6,152	人 1,009	人 7,161	—	人 —	人 —	人 233	人 6,385	人 1,009
合 格 者	人 1,203	人 48	人 1,251	人 71	—	人 71	人 1,274	人 48	人 1,322	人 1,310	人 148	人 1,458	—	人 —	人 —	人 33	人 1,343	人 148

区 分	昭 和 58 年 度									昭 和 59 年 度								
	国 立			公 立			私立			国 立			公 立			私立	計	
	定員留保	欠員補充	計	定員留保	欠員補充	計	定員留保	欠員補充	計	定員留保	欠員補充	計	定員留保	欠員補充	計	定員留保	欠員補充	計
実施大学	大字 学部 19 25	大字 学部 1 1	大字 学部 20 26	大字 学部 1 1	—	大字 学部 1 1	大字 学部 21 27	大字 学部 1 1	大字 学部 22 28	大字 学部 26 34	大字 学部 4 4	大字 学部 27 38	大字 学部 1 2	大字 学部 1 1	大字 学部 2 3	大字 学部 1 1	大字 学部 28 37	大字 学部 5 5
募集人員	約 人 992	約 人 13	約 人 1,005	人 40	—	人 40	約 人 1,057	約 人 13	約 人 1,070	約 人 1,253	約 人 49	約 人 1,302	人 100	人 43	人 143	約 人 25	約 人 1,378	約 人 92
志 願 者	人 8,846	人 210	人 9,056	人 460	—	人 460	人 9,749	人 210	人 9,959	人 9,277	人 449	人 9,726	人 514	人 307	人 821	人 297	人 10,088	人 756
受 験 者	人 8,519	人 205	人 8,724	人 460	—	人 460	人 9,197	人 205	人 9,402	人 7,749	人 434	人 8,183	人 514	人 307	人 821	人 172	人 8,435	人 741
合 格 者	人 1,398	人 13	人 1,411	人 59	—	人 59	人 1,488	人 13	人 1,501	人 1,802	人 63	人 1,865	人 174	人 46	人 220	人 32	人 2,008	人 109

区 分	昭 和 60 年 度								
	国 立			公 立			私立		
	定員留保	欠員補充	計	定員留保	欠員補充	計	定員留保	欠員補充	計
実施大学	大字 学部 32 48	大字 学部 4 4	大字 学部 33 50	大字 学部 1 2	大字 学部 1 1	大字 学部 2 3	大字 学部 1 1	大字 学部 34 51	大字 学部 5 5
募集人員	約 人 1,720	約 人 120	約 人 1,840	人 100	人 34	人 134	約 人 30	約 人 1,850	約 人 154
志 願 者	人 12,577	人 1,654	人 14,231	人 856	人 251	人 1,107	人 292	人 13,725	人 1,905
受 験 者	人 11,167	人 454	人 11,621	人 856	人 251	人 1,107	人 180	人 12,203	人 705
合 格 者	人 2,280	人 149	人 2,429	人 154	人 40	人 194	人 39	人 2,473	人 189

(注) 1 国立大学のうち、55年度1校、57年度2校については、「定員留保」と「欠員補充」との両方に重複して算入している。
2 募集人員を若干名としているものについては、募集人員欄では除いている。

(4) 2段階選抜

区分	昭 和 54 年 度			昭 和 55 年 度			昭 和 56 年 度			昭 和 57 年 度			昭 和 58 年 度			昭 和 59 年 度			昭 和 60 年 度		
	国立	公立	計	国立	公立	計	国立	公立	計	国立	公立	計	国立	公立	計	国立	公立	計	国立	公立	計
実施予 告大学	大字 学部 38 122	大字 学部 14 26	大字 学部 52 138	大字 学部 34 96	大字 学部 14 23	大字 学部 48 119	大字 学部 33 93	大字 学部 12 22	大字 学部 45 115	大字 学部 32 89	大字 学部 13 23	大字 学部 45 112	大字 学部 30 84	大字 学部 11 21	大字 学部 41 105	大字 学部 30 84	大字 学部 12 22	大字 学部 42 106	大字 学部 25 77	大字 学部 12 25	大字 学部 37 102
実施大学	大字 学部 12 28	大字 学部 7 12	大字 学部 19 40	大字 学部 11 27	大字 学部 6 17	大字 学部 33 11	大字 学部 24 4	大字 学部 5 15	大字 学部 29 13	大字 学部 25 7	大字 学部 13 20	大字 学部 38 10	大字 学部 24 4	大字 学部 4 14	大字 学部 28 9	大字 学部 19 5	大字 学部 5 14	大字 学部 24 9	大字 学部 20 4	大字 学部 4 13	大字 学部 24 24
入学定員	人 4,241	人 1,445	人 5,686	人 6,609	人 1,080	人 7,689	人 5,984	人 860	人 6,844	人 6,339	人 1,425	人 7,764	人 6,579	人 780	人 7,359	人 5,799	人 815	人 6,614	人 4,788	人 675	人 5,463
志願者	人 15,684	人 22,532	人 38,216	人 24,337	人 11,872	人 36,209	人 20,318	人 11,618	人 31,936	人 21,568	人 16,278	人 37,846	人 22,369	人 11,460	人 33,829	人 18,847	人 11,342	人 30,189	人 17,233	人 7,990	人 25,223
第1段階選 抜合格者	人 12,734	人 12,534	人 25,268	人 19,464	人 10,304	人 29,768	人 17,081	人 8,364	人 25,445	人 18,401	人 12,567	人 30,968	人 19,677	人 8,366	人 28,043	人 16,909	人 8,472	人 25,381	人 14,027	人 6,151	人 20,178
不合格 者 数	人 2,950	人 9,998	人 12,948	人 4,873	人 1,568	人 6,441	人 3,237	人 3,254	人 6,491	人 3,167	人 3,711	人 6,878	人 2,692	人 3,094	人 5,786	人 1,938	人 2,870	人 4,808	人 3,206	人 1,839	人 5,045

(5) 共通第1次学力試験及び第2次試験の成績の配点(比率)等の公表状況

区 分	大 学 単 位				学 部 単 位			
	昭 和 58 年 度		昭 和 59 年 度		昭 和 60 年 度		昭 和 59 年 度	
	国立	公立	私立	計	国立	公立	私立	計
	93	34	1	128	94	34	1	129
大学・学部総数	86	32	1	119	91	33	1	125
	(92)	(94)	(100)	(93)	(97)	(97)	(100)	(97)
	57	23	—	80	42	19	—	61
	(66)	(72)	—	(67)	(46)	(58)	—	(49)
配点(比率)を公表している	4	—	—	4	10	1	—	11
	(5)	—	—	(4)	(11)	(3)	—	(9)
	3	2	1	6	7	3	1	11
	(3)	(6)	(100)	(5)	(8)	(9)	(100)	(9)
共通1次試験の成績を重視する	22	7	—	29	32	10	—	42
	(26)	(22)	—	(24)	(35)	(30)	—	(34)
	49	23	1	73	60	23	1	84
	(53)	(68)	(100)	(57)	(64)	(68)	(100)	(65)
1次・2次試験の成績を均等に重視する	33	7	—	40	17	—	—	51
	(8)	(9)	—	(12)	(22)	—	—	(69)
	60	12	1	73	40	12	1	53
	(15)	(100)	(100)	(14)	(16)	(100)	(100)	(78)
2次試験の成績を重視する	33	7	—	40	17	—	—	51
	(8)	(9)	—	(12)	(22)	—	—	(69)
	60	12	1	73	40	12	1	53
	(15)	(100)	(100)	(14)	(16)	(100)	(100)	(78)
学部《学科》単位で配点(比率)が異なる大学《学部》	49	23	1	73	60	23	1	84
	(53)	(68)	(100)	(57)	(64)	(68)	(100)	(65)
	205	42	1	248	162	42	1	205
	(48)	(53)	(100)	(40)	(53)	(100)	(100)	(40)
共通1次試験の教科間の配点(比率)に軽重をつけている	205	42	1	248	162	42	1	205
	(48)	(53)	(100)	(40)	(53)	(100)	(100)	(40)
	205	42	1	248	162	42	1	205
	(48)	(53)	(100)	(40)	(53)	(100)	(100)	(40)

(注) 1 (内)は、大学・学部総数に対する比率を示し、「内訳欄」については「配点(比率)」を公表している大学・学部に対する比率を示す。
2 「学部《学科》単位で配点(比率)が異なる大学《学部》欄」については「学部単位で配点(比率)」が異なる大学を、学部単位については「学科単位で配点(比率)」が異なる学部をそれぞれ示す。
3 この表には「共通1次試験のみ公表」や「2次試験のみ公表」といった大学・学部は算入していない。ただし、共通1次試験のみ公表で軽重のある場合は、「共通1次試験の教科間の配点(比率)に軽重をつけている」大学・学部を含む。

(6) 昭和60年度学部系統別の概況

① 選抜方法等

区 分		学部数	学力検査を課さない	推薦入学	第2次募集		2段階選 抜	実技検査	面 接	小 論 文
			学部数(%)		学部数(%)	定員留保				
人文科学系	国立	(1)34	3(8.8)	(1)3(8.8)	1(2.9)	(1)4(11.8)	8(23.5)	2(5.9)		(1)14(14.1)
	公立	(5)24	4(16.7)	(2)8(33.3)		(1)2(8.3)	(2)6(25.0)			(1)9(37.5)
社会科学系	国立	(10)56	(5)6(10.7)	(7)20(35.7)	(1)12(21.4)	(2)4(7.1)	14(25.0)		(1)2(3.6)	(2)16(28.6)
	公立	(5)20	3(15.0)	6(30.0)	2(10.0)	1(5.0)	(2)7(35.0)			(1)7(35.0)
理 学 系	国立	29	3(10.3)	7(24.1)	8(27.6)	3(10.3)	4(13.8)		4(13.8)	3(10.3)
	公立	(1)3		1(33.3)			2(66.7)			2(66.7)
工 学 系	国立	(6)54	(1)1(1.9)	(5)29(53.7)	(2)15(27.8)	(1)5(9.3)	3(5.6)	(1)6(11.1)	(1)5(9.3)	(1)5(9.3)
	公立	(1)5		1(20.0)			3(60.0)		(1)2(40.0)	(1)2(40.0)
農 学 系	国立	37	7(18.9)	30(81.1)	6(16.2)	4(10.8)	6(16.2)		6(16.2)	10(27.0)
	公立	2		2(100.0)		1(50.0)				
医 歯 学 系	国立	52	1(1.9)	3(5.8)	1(1.9)	2(3.8)	18(34.6)		18(34.6)	17(32.7)
	公立	9					3(33.3)		4(44.4)	3(33.3)
	私立	1			1(100.0)				1(100.0)	1(100.0)
薬 学 系	国立	11			1(9.1)		3(27.3)			
	公立	3					2(66.7)		2(66.7)	
教員養成系	国立	(1)50	(1)39(78.0)	16(32.0)	2(4.0)	11(22.0)	3(6.0)	49(98.0)	11(22.0)	(1)29(58.0)
	公立									
商 船 学 系	国立	2		1(50.0)	1(50.0)					
	公立									
家 政 学 系	国立	2								1(50.0)
	公立	8	5(62.5)	4(50.0)		2(25.0)		2(25.0)	1(12.5)	5(62.5)
教 養 学 系	国立	1								
	公立									
芸 術 学 系	国立	2	2(100.0)					2(100.0)	2(100.0)	2(100.0)
	公立	5	5(100.0)				2(40.0)	5(100.0)	1(20.0)	1(20.0)
体 育 学 系	国立	1	1(100.0)	1(100.0)		1(100.0)		1(100.0)	1(100.0)	1(100.0)
	公立									
学 群	国立	6	3(50.0)	5(83.3)			6(100.0)	2(33.3)	4(66.7)	2(33.3)
	公立									
文 類	国立	6					6(100.0)			1(16.7)
	公立									
理 類	国立	6					6(100.0)			
	公立									
そ の 他	国立	1		1(100.0)		1(100.0)				1(100.0)
	公立									
計	国立	(18)350	(7)66(18.9)	(13)116(33.1)	(2)47(13.4)	(4)35(10.0)	77(22.0)	(1)62(17.7)	(2)53(15.1)	(5)102(29.1)
	公立	(12)79	17(21.5)	(2)22(27.8)	2(2.5)	(1)6(7.6)	(4)25(31.6)	7(8.9)	(1)10(12.7)	(3)29(36.7)
	私立				1(100.0)				1(100.0)	1(100.0)

- (注) 1 各欄の比率は、各区分ごとの学部数に対する割合である。
2 北大、東大の19学部(北大9、東大10)については、文類、理類に分類した。
表中の()内は、第2部及び夜間を主とするコースの学部数を内数で示す。
3 小論文、面接及び実技検査の各欄は、推薦入学等に係るものは除いてある。

② 学力検査の受験科目数

区 分		学部数	学力検査を課さない		平均科目数	受 験 科 目 数 分 布				
			全学的 学部数(%)	学部・学科の一部 学部数(%)		0～4 科目未満 学部数(%)	4～8 科目未満 学部数(%)	8～12 科目未満 学部数(%)	12～13 科 目 学部数(%)	計
人文科学系	国立	34		3 (8.8)	5.2	10(29.4)	19(55.9)	5(14.7)		34(100.0)
	公立	24		4 (16.7)	4.3	12(50.0)	9(37.5)	3(12.5)		24(100.0)
社会科学系	国立	56		6 (10.7)	5.0	23(41.1)	20(35.7)	13(23.2)		56(100.0)
	公立	20	1 (5.0)	2 (10.0)	5.1	5(25.0)	10(50.0)	5(25.0)		20(100.0)
理 学 系	国立	29		3 (10.3)	5.3	11(37.9)	11(37.9)	6(20.7)	1 (3.5)	29(100.0)
	公立	3			10.3			3(100.0)		3(100.0)
工 学 系	国立	54		1 (1.9)	5.3	11(20.4)	34(63.0)	9(16.6)		54(100.0)
	公立	5			9.0		1(20.0)	4(80.0)		5(100.0)
農 学 系	国立	37		7 (18.9)	3.6	26(70.3)	4(10.8)	7(18.9)		37(100.0)
	公立	2			5.5		2(100.0)			2(100.0)
医 歯 学 系	国立	52	1 (1.9)		7.2	3 (5.8)	22(42.3)	27(51.9)		52(100.0)
	公立	9			8.6		2(22.2)	7(77.8)		9(100.0)
	私立	1			11.0			1(100.0)		1(100.0)
薬 学 系	国立	11			6.7	1 (9.1)	6(54.5)	4(36.4)		11(100.0)
	公立	3			4.7		3(100.0)			3(100.0)
教員養成系	国立	50	2 (4.0)	37(74.0)	2.4	41(82.0)	9(18.0)			50(100.0)
	公立									
商 船 学 系	国立	2			4.0	1(50.0)	1(50.0)			2(100.0)
	公立									
家 政 学 系	国立	2			6.9		2(100.0)			2(100.0)
	公立	8		5(62.5)	1.9	7(87.5)	1(12.5)			8(100.0)
教 養 学 系	国立	1			6.5		1(100.0)			1(100.0)
	公立									
芸 術 学 系	国立	2		2(100.0)	1.3	2(100.0)				2(100.0)
	公立	5	5(100.0)		0	5(100.0)				5(100.0)
体 育 学 系	国立	1	1(100.0)		0	1(100.0)				1(100.0)
	公立									
学 群	国立	6		3(50.0)	3.1	3(50.0)	3(50.0)			6(100.0)
	公立									
文 類	国立	6			8.0	1(16.7)	2(33.3)	3(50.0)		6(100.0)
	公立									
理 類	国立	6			10.0			3(50.0)	3(50.0)	6(100.0)
	公立									
そ の 他	国立	1			3.0	1(100.0)				1(100.0)
	公立									
計	国立	350	4 (1.1)	62(17.7)	5.0	135(38.6)	134(38.3)	77(22.0)	4 (1.1)	350(100.0)
	公立	79	6 (8.9)	11(13.9)	5.0	29(36.7)	28(35.4)	22(27.9)		79(100.0)
	私立	1			11.0			1(100.0)		1(100.0)

- (注) 1 北大、東大の19学部(北大9、東大10)については、文類、理類に分類した。

共通第 1 次学力試験の歩み

昭和46年 2 月 国立大学協会の第 2 常置委員会入試調査特別委員会が、全国立大学の共通第 1 次試験の構想などについて検討を始めた。

昭和46年12月 文部省の大学入試改善会議が、共通学力検査の実施を含む「大学入学者選抜方法の改善について」を発表した。

昭和48年 4 月 国立大学協会が、入試改善調査委員会を設置し、共通第 1 次学力試験について具体的な調査研究（試験問題作成、電算機処理、実施機構など）を開始した。

昭和49年11月 国立大学協会の入試改善調査委員会が、それまでの調査研究の結果を実際に即して確かめるため、国立大学の協力のもとに、全国 7 地区において高等学校 3 年生、約 3,000 人を対象として、実地研究を行った。

昭和50年11月 国立大学協会の入試改善調査委員会が、全国 7 地区14会場において高等学校 3 年生約5,000人を対象として、第 2 回の実地研究を行った。

昭和51年 5 月 共通第 1 次学力試験に関する調査研究を推進するため、「国立大学入試改善調査施設」が東京大学に附置された。

昭和51年 6 月 国立大学協会が総会において、『共通第 1 次学力試験の実施は、大学入試の改善に資する。しかし、この共通第 1 次学力試験を実施することについては、種々重要な問題が残されているので、これらの問題について、今後文部省とも協議し、慎重に検討したうえで方針を決定したい。』との方針を全員一致で決定した。

また、国立大学の入学者選抜期日については、共通第 1 次学力試験の実施と合わせて、

1 期校、2 期校の区分を廃止し、一元化して行うことが望ましいとした。

昭和51年10月 国立大学協会の入試改善調査委員会が、全国 7 地区48会場において高等学校 3 年生約12,000人を対象として、第 3 回の実地研究を行った。

昭和51年11月 国立大学協会が総会において、『国立大学共通第 1 次学力試験は、昭和54年度大学入学者選抜から実施可能である。』との結論に達した。

昭和51年12月 公立大学協会が臨時総会において、「公立大学においても共通第 1 次学力試験を利用する。」との意見をまとめた。

昭和52年 5 月 大学入試センターが設置され(国立学校設置法の一部改正)、初代所長に加藤陸奥雄(前東北大学長)が就任した。

昭和52年 6 月 文部省が、共通第 1 次学力試験及び各大学の第 2 次試験等の日程等を定めた「昭和54年度以降における大学入学者選抜実施要項」を発表した。

昭和52年 7 月 大学入試センターが、「昭和54年度大学入学者選抜に係る共通第 1 次学力試験実施大綱(試験の実施時期は12月)」を発表した。

昭和52年12月 大学入試センターと国公立大学 120校が協力して、高等学校 3 年生等を対象として試行テストを実施した。(出願者数 63,609 人、受験者 39,673 人)

昭和53年 1 月 国立大学協会が、共通第 1 次学力試験の実施時期を 1 月中旬に繰り下げることを決定した。(出願受付10月初旬)

昭和53年 6 月 大学入試センターが、「昭和54

年度大学入学者選抜共通第 1 次学力試験実施要項」及び「同受験案内」を発表した。

また、広報誌「新しい大学入試」を刊行した。

昭和53年 7 月 大学入試センターが、全国 7 地区において、高等学校の進学担当教員等約 8,000 人を対象として、共通第 1 次学力試験の説明協議会を開催した。

昭和53年10月 昭和54年度共通第 1 次学力試験の出願受付(10月 2 日～16日)を行った。

昭和53年12月 昭和54年度共通第 1 次学力試験出願時における国立・公立大学の志望状況を発表した。(志願者数 341,875 人、平均志願倍率 3.7 倍)

昭和54年 1 月 昭和54年度共通第 1 次学力試験(第 1 回)が実施された。

また、1 週間後にその追試験が実施された。

昭和54年 2 月 昭和54年度共通第 1 次学力試験(本試験)の平均点などを発表した。(総得点の平均点 636.07 点)

昭和54年 3 月 各国公立大学が第 2 次試験を実施した。

昭和54年 9 月 国立大学協会、公立大学協会及び大学入試センターが、国公立大学の入学志願者のための「国公立大学ガイドブック—昭和55年度版—」を共同で編集刊行した。

昭和55年 1 月 昭和55年度共通第 1 次学力試験(第 2 回)が実施された。

国立大学協会及び大学入試センターが、高等学校の学習指導要領の改訂に伴う昭和60年度以降の共通第 1 次学力試験の在り方について調査研究を開始した。

昭和55年 4 月 昭和54年度共通第 1 次学力試験の実施結果を取りまとめた「大学入試センター年報—昭和53年度—」を刊行した。

昭和56年 1 月 昭和56年度共通第 1 次学力試験(第 3 回)が実施された。

昭和56年 6 月 昭和57年度の共通第 1 次学力試験から社会の「倫理・社会」及び「政治・経済」の 2 科目を同時に選択することができないこととした。

また、産業医科大学が、私立大学として初めて共通第 1 次学力試験に参加することとなった。

昭和57年 1 月 昭和57年度共通第 1 次学力試験(第 4 回)が実施された。

昭和57年 4 月 所長に小坂淳夫(前岡山大学長)が就任した。

昭和57年11月 国立大学協会が「昭和60年度以降の共通第 1 次学力試験の出題教科・科目等について」を発表した。

昭和58年 1 月 昭和58年度共通第 1 次学力試験(第 5 回)が実施された。

文部省が「昭和60年度以降の大学入学者選抜実施要項」を発表した。

昭和59年 1 月 昭和59年度共通第 1 次学力試験(第 6 回)が実施された。

昭和59年 5 月 文部省が「昭和60年度の大学入学者選抜実施要項」を発表した。

昭和60年 1 月 昭和60年度共通第 1 次学力試験(第 7 回)が実施された。

昭和60年 4 月 所長に堯天義久(前神戸大学長)が就任した。

昭和60年 4 月 文部省が「昭和61年度の大学入学者選抜実施要項」を発表した。

昭和60年 6 月 国立大学協会が、昭和62年度の共通第 1 次学力試験の改革案を決定した。

昭和60年 6 月 文部省が「昭和62年度の共通第 1 次学力試験の出題教科に係る解答方法等について」を発表した。

昭和60年7月
大学入試センター

